天正十二年　十九才ニテ相続

天正十三年　芦名氏伊達ト共ニ館山ニ築城ヲ噂ル

大内定綱伊勢守逃其ノ城ヲ捨棄シテ、遁ル

畠山義継父輝宗ヲトラヘ逃ゲ共ニ殞命

人取橋ニテ佐竹芦名ノ兵ト戦ヒ漸ク撃退ス

天正十四年　畠山氏ノ二本松城ヲ攻メ相馬氏ノ仲裁ニ依リ畠山氏城ヲ棄テ会津ニ走ル

天正十五年　鮎貝宗信若氏逆臣ヲ討ツ

大内定綱降ル

天正十六年　大崎氏ヲ攻メ敗ラル

相馬氏ト新地ニ戦フ

郡山附近ニテ佐竹芦名兵ト戦ツテ和ス

天正十七年　相馬氏ト戦ヒ駒ケ峯城ヲ取ル

六月黒川城ヲ取ル芦名氏亡ブ黒川城ニ移城ス

白河義親降ル

十月須賀川城陥ル二階堂氏亡ブ

十一月石川昭光降ル

天正十八年　四月弟小次郎ヲ殺ス

小田原ニ至リ終ニ開城セル

# 仙台城主変遷表

藩

城主

石高

期

内

摘要

陸軍

国分城
[illegible]ノ荒城ト成ル。

# 仙台城主変遷表

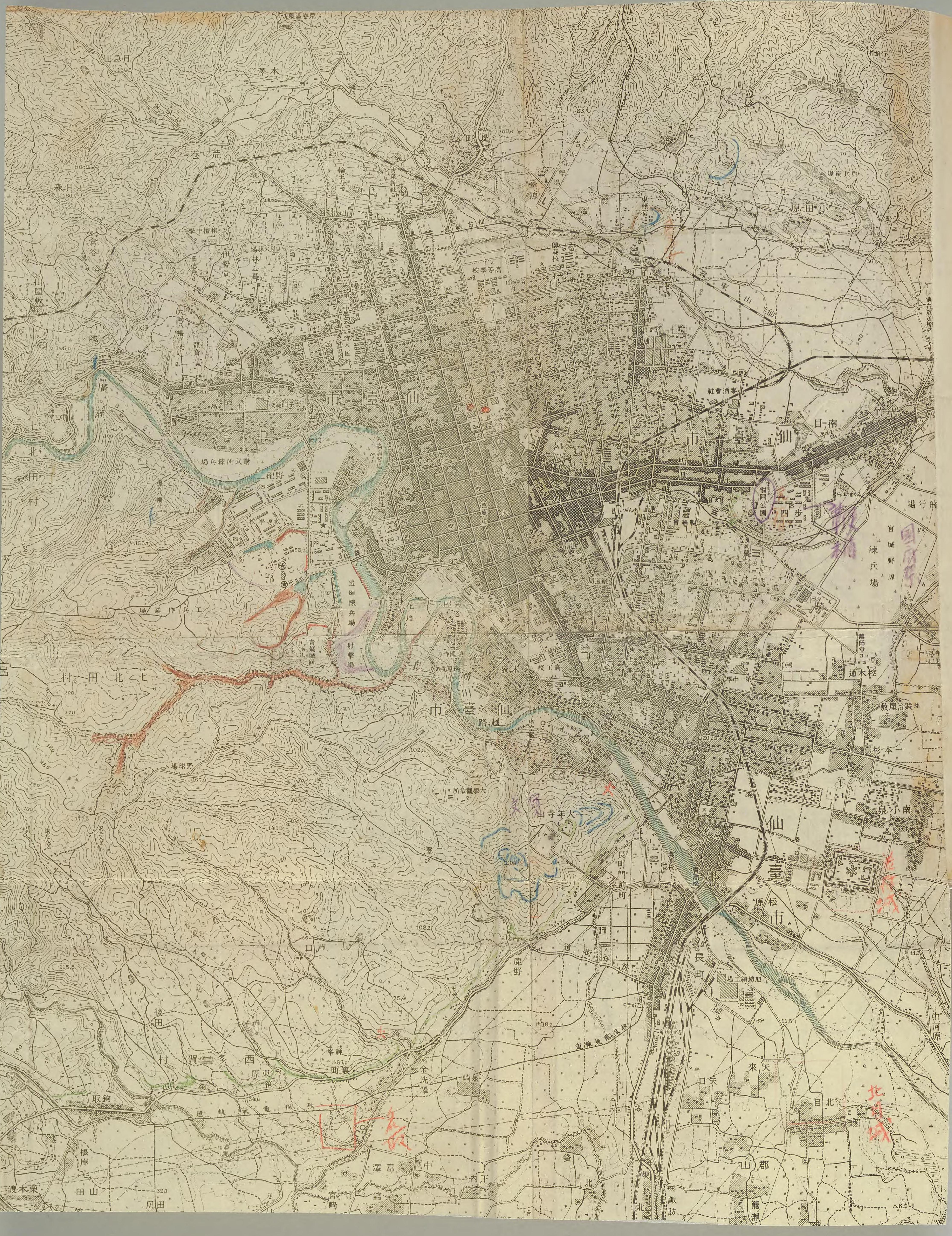
| 藩主 | 城主 | 石高 | 期間 | 年限 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 國分氏 |  |  |  |  | 中古島津陸奥守始め茂庭城（モガサキ）に居り後城に移る。文治中結城朝光時に居る。不詳荒廃久しと伝ふるも明徴なしと（地名辞書） |
|  | 口分 |  |  |  | 城代々口分氏之居る。（千代城時ト今ノ本丸）口分氏は千葉の流とするもの、小山、長沼の一族とするもの二説あり |
|  | 〃 |  |  |  |  |
|  | 〃 宗政 |  |  |  | 移りて望手口（松森ならんてと）山城に居る。 |
|  | [illegible] 義宗 |  | 天文六年 |  | 天文中伊達稙宗（又は[illegible]義宗）と晴宗戦ひし時に依り口分氏稙宗に与して松森に移り千代城に居党をおく、その時義宗居りたりと。 |
|  | 口分盛氏 |  | 文禄中 |  | 此城に居る。小泉に移り終に松森城に移ると |
|  | 〃 盛重 |  | 天正中<br>慶長元年 |  | 口分某国によるが天正六年松森城を築く、実は伊達晴宗の季子<br>慶長元年政宗公岩手山に在る時故ありて常州佐竹氏に赴くと。 |
| 伊達氏 | 伊達政宗 | 六〇〇、〇〇〇石 | 慶長六年<br>〃七年<br>寛永十三年 | （13代）269年 | 慶長五年十二月二十四日縄張初め<br>同六年正月鍬立普請<br>五月十八日工全くなる、八年八月北目城より移る。<br>卒去、 |
|  | 〃 忠宗 | 〃 | 同年<br>万治元年 |  | 家をつぐ<br>寛永十五年二ノ丸縄張始め十六年六月二の丸[illegible]<br>卒去 |
|  | 〃 綱宗 | 〃 | 同年<br>万治三年 |  | 家をつぐ |
|  | 〃 綱村 | 〃 | 同年<br>元禄十六年 |  | 家をつぐ<br>元禄十六年大手[illegible]成る<br>致仕 |
|  | 〃 吉村 | 〃 | 同年<br>寛保三年 |  | 封を継ぐ<br>致仕、 |
|  | 〃 宗村 | 〃 | 同年<br>宝暦六年 |  | 家をつぐ<br>卒去 |
|  | 〃 重村 | 〃 | 同年<br>寛政二年 |  | 家をつぐ<br>致仕 |
|  | 〃 斉村 | 〃 | 同年<br>寛政八年 |  | 家をつぐ<br>卒去 |
|  | 〃 周宗 | 〃 | 同年<br>文化九年 |  | 家をつぐ<br>致仕 |
|  | 〃 斉宗 | 〃 | 同年<br>文政二年 |  | 家をつぐ<br>卒去 |
|  | 〃 斉義 | 〃 | 同年<br>文政十一年 |  | 封を継ぐ<br>卒去 |
|  | 〃 斉邦 | 〃 | 同年<br>天保十二年 |  | 封を継ぐ<br>卒去 |
|  | 〃 慶邦 | 二八〇、〇〇〇石 | 同年<br>明治元年<br>明治二年 |  | 奥羽の盟主たるにより削封。 |

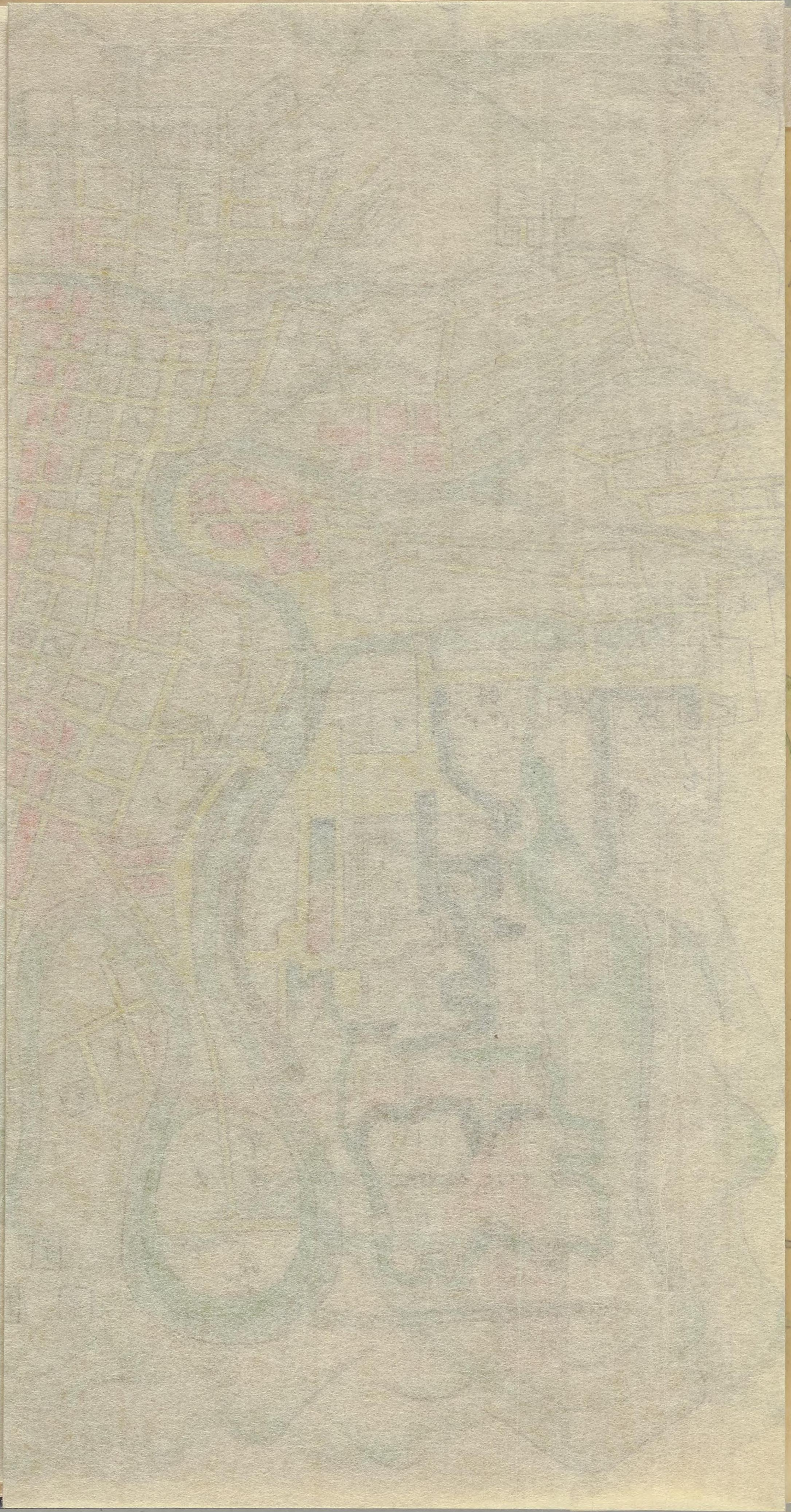
小泉ハ今ノ
榴[illegible]町ノ跡

陸軍

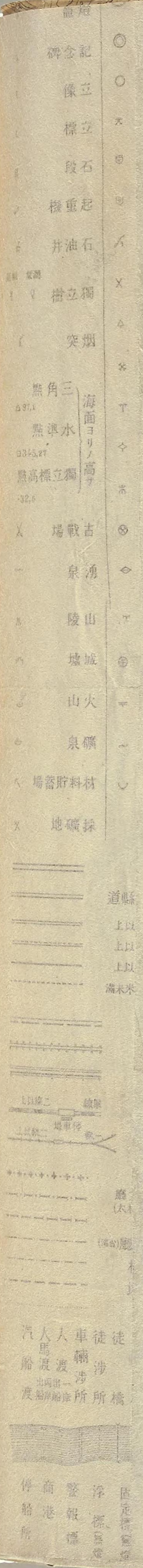
仙台城

二[illegible]五十号ノ一

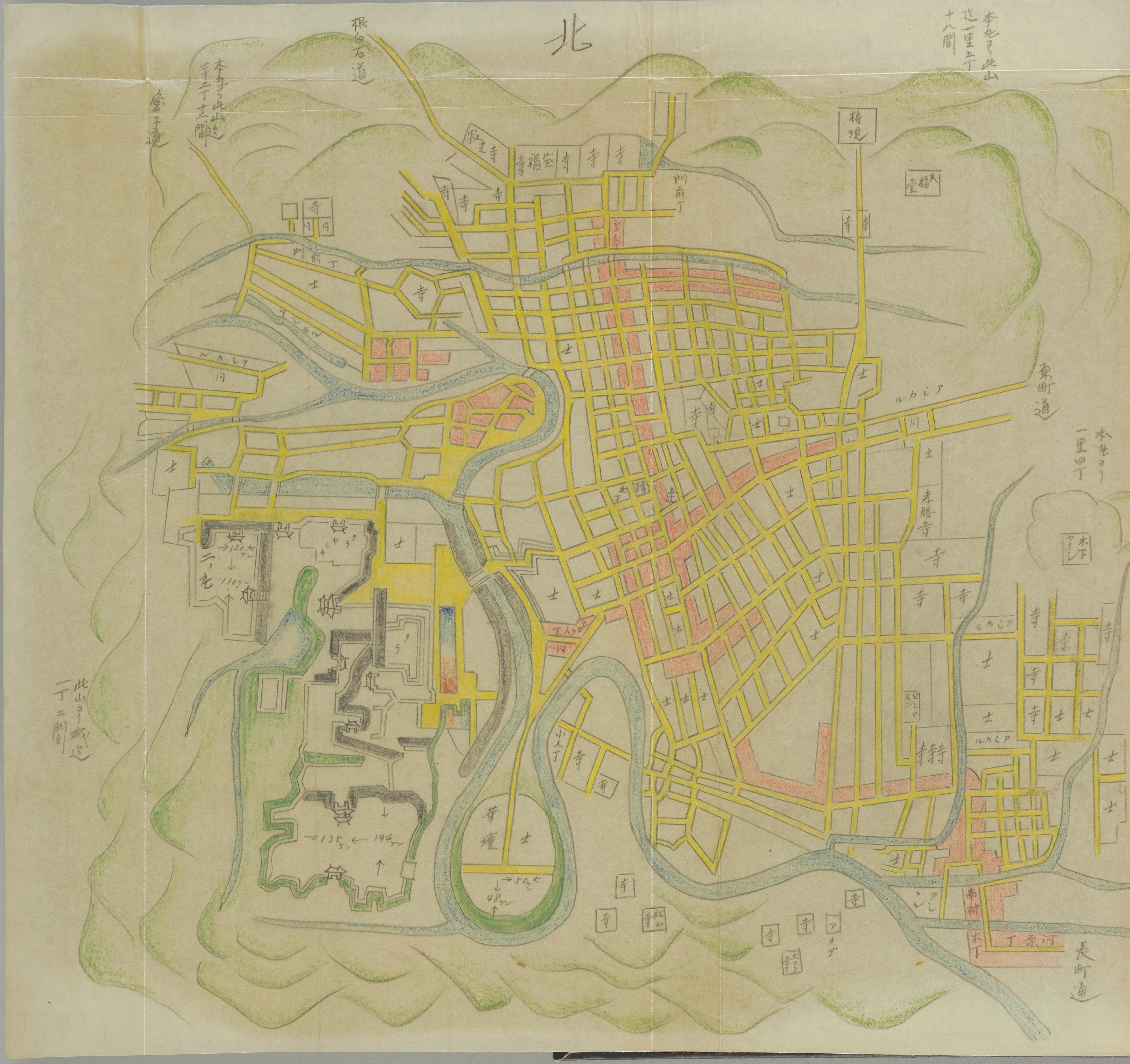

仙臺市
廣瀬川
講武所練兵場
追廻練兵場
射撃場
花壇
宮城野原練兵場
飛行場
榴岡公園
步四
薬師堂
校木通
鍛治屋敷
一本杉
南小泉
第一中學
松原
旭紡績工場
長町
矢來
北目
郡山
中河原
大年寺山
越路
七北田村
荒巻
小田原
南目
若林城
北目城
国分寺



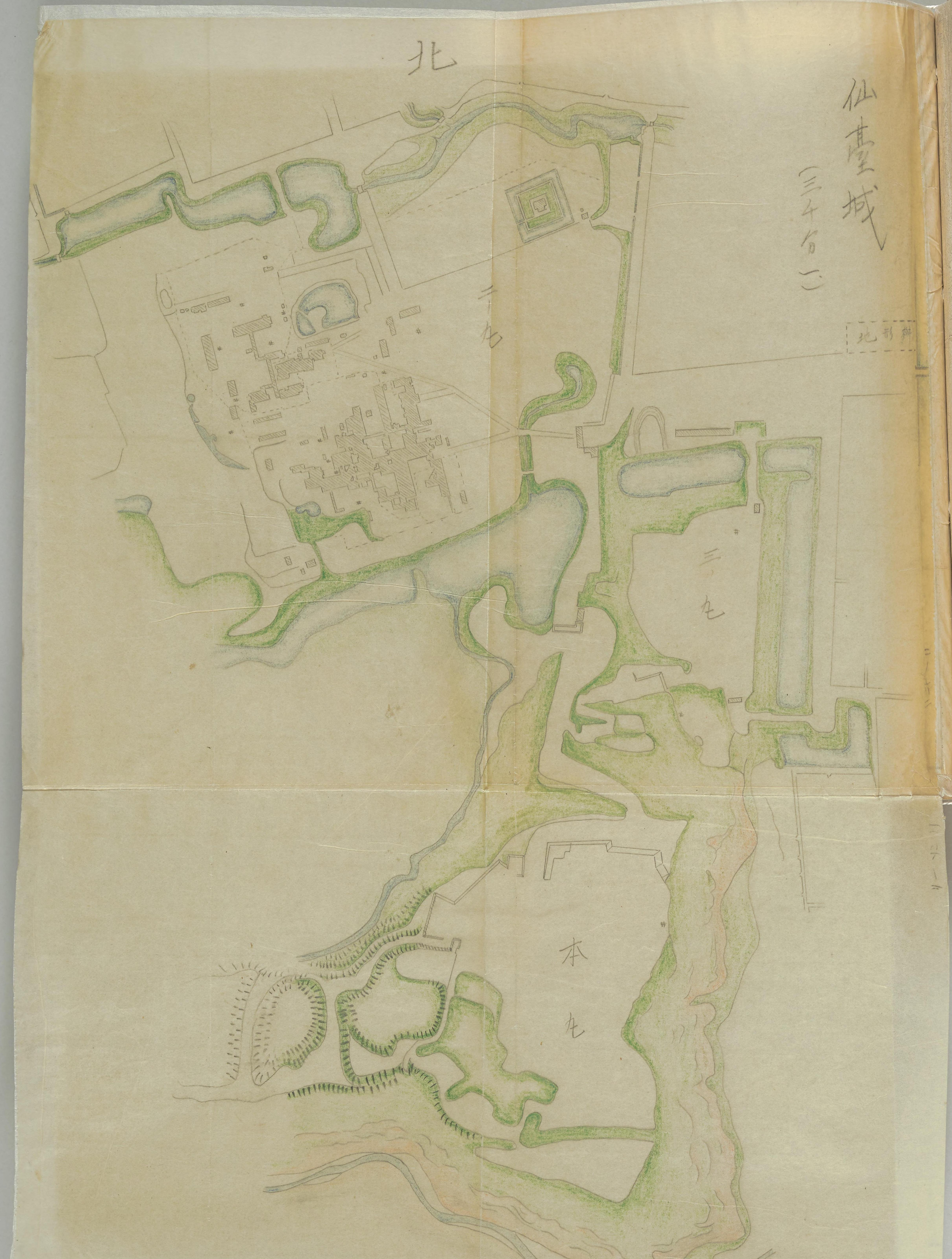
仙臺


燈臺
記念碑
立像
立標
石段
起重機
石油井
獨立樹
烟突
三角點
水準點
獨立標高點
海面ヨリノ高サ
古戰場
湧泉
山陵
城墟
火山
礦泉
材料貯蓄場
採礦地
縣道
以上
以上
以上
未滿
二線以上
單線
停車場
一線
二線以上
徒橋
徒渉所
車輛渉所
人渡
馬渡
汽船渡
固定標
浮標
警報標
商港
停船所

# 陸奥仙臺


北
根白石道
本丸ヨリ此山迄十二丁十三間
愛子道
本丸ヨリ此山迄一里五丁十八間
寺
寺
寺
室福寺
寂光寺
寺
寺
寺
門前丁
門前丁
梅現
天福堂
寺
士
寺
アシカル
アシカル
ルカシア
東町道
本丸ヨリ一里四丁
士
孝勝寺
木下ヤクシ
寺
寺
寺
寺
ルカシア
寺
寺
寺
士
士
士
ビシヤモン
ルカシア
士
士
士
士
二ノ丸
→120ケン←
110ケン
キレヤラク
クラ
丁人クヨシ
此山ヨリ城迄一丁二間
→135ケン← 144ケン
小人丁
寺
寺
華壇
士
→50ケン←
48ケン
寺
寺
松山寺
寺
寺
大ウラ
アタゴ
アシカル
南材木丁
河原丁
長町通

# 仙臺城（三千分一）


北
二丸
耕形地
三丸
本丸

仙臺城ニ就テ

一特徴

1.地形を利用せんが為奥の方に後退に過ぐる嫌あり
而も城東要害の低部に位し即ち大年寺古地、榴岡
東照宮等諸要地の瞰制を受くる為め尚大年寺より西南方に
土塁を四重となして造築しあり 出撃に不利なり

2.正面の地形堅固なり
廣瀬川は到る所断崖をなし 城南の地隙の如きは我国
城郭中其の類例を見ざる防禦力を有す

3.後方即ち西方に對し防禦甚だ薄弱なり 特に二ノ丸の
後方の如きは限界なく後方の山と連接し 即ち城郭は
従て城郭なり 切ん土を要する為背後を突撃せし 且地

陸軍、城、史、

（　　）

濠池を設けて人民の侵入を禁ぜしなり

4.本丸二の丸三の丸は並列しあり即ち所謂連郭式の形局を成せず

二、本丸南方地隙の雄大なるは地図を讀みても想像し得るも其の断面は殆んど知られざるも實に大なる其の断面を示す

當河岸は断崖を成す所多く従て陸行を遮す

陸軍、城、史、

陸軍

例城

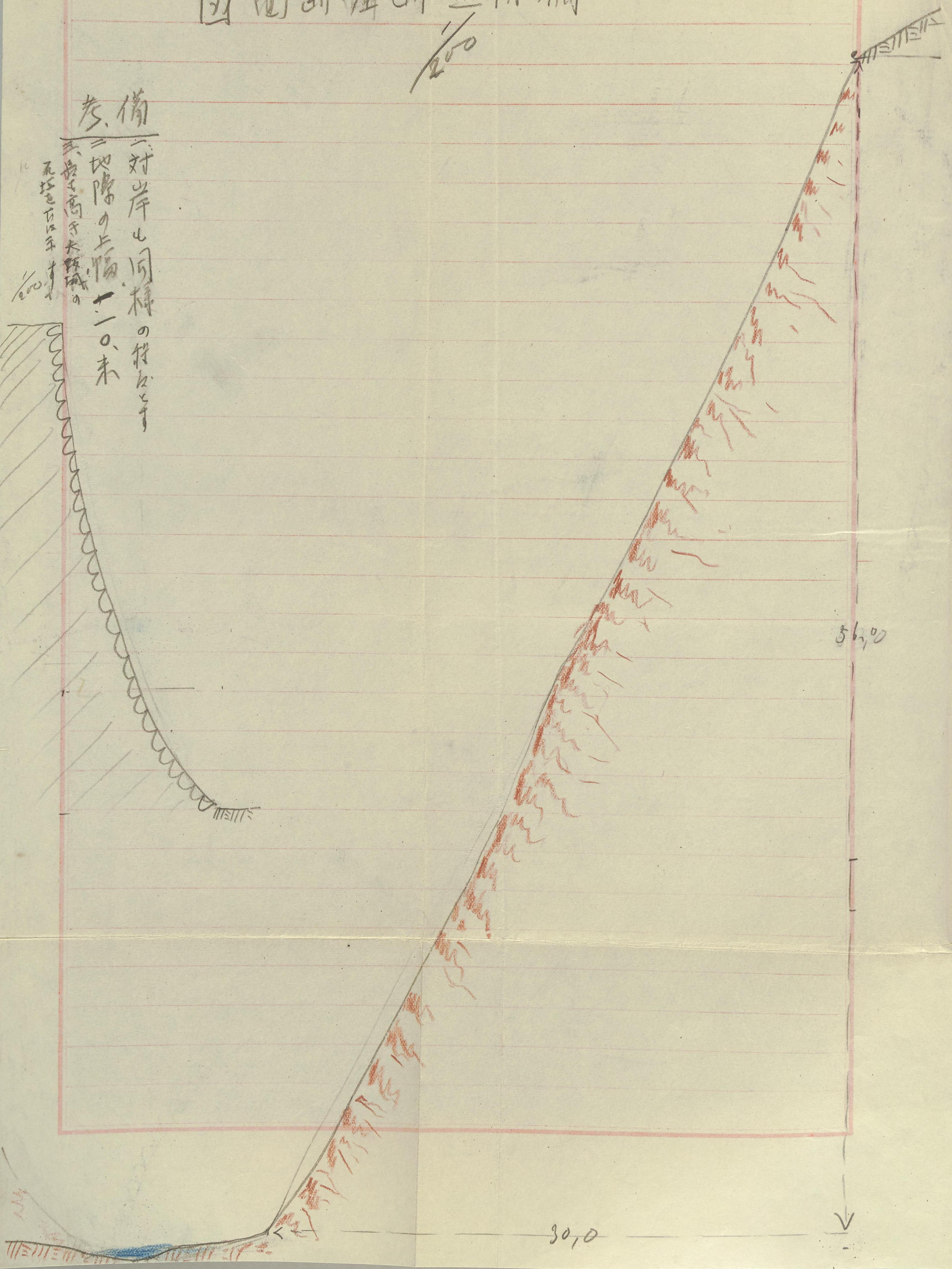
# 八木橋附近断崖断面図

1/600

## 備考

一、対岸も同様の状態とす
二、地隙の上幅十三一〇、米
三、最も高き大野城の尾根を古江平とす

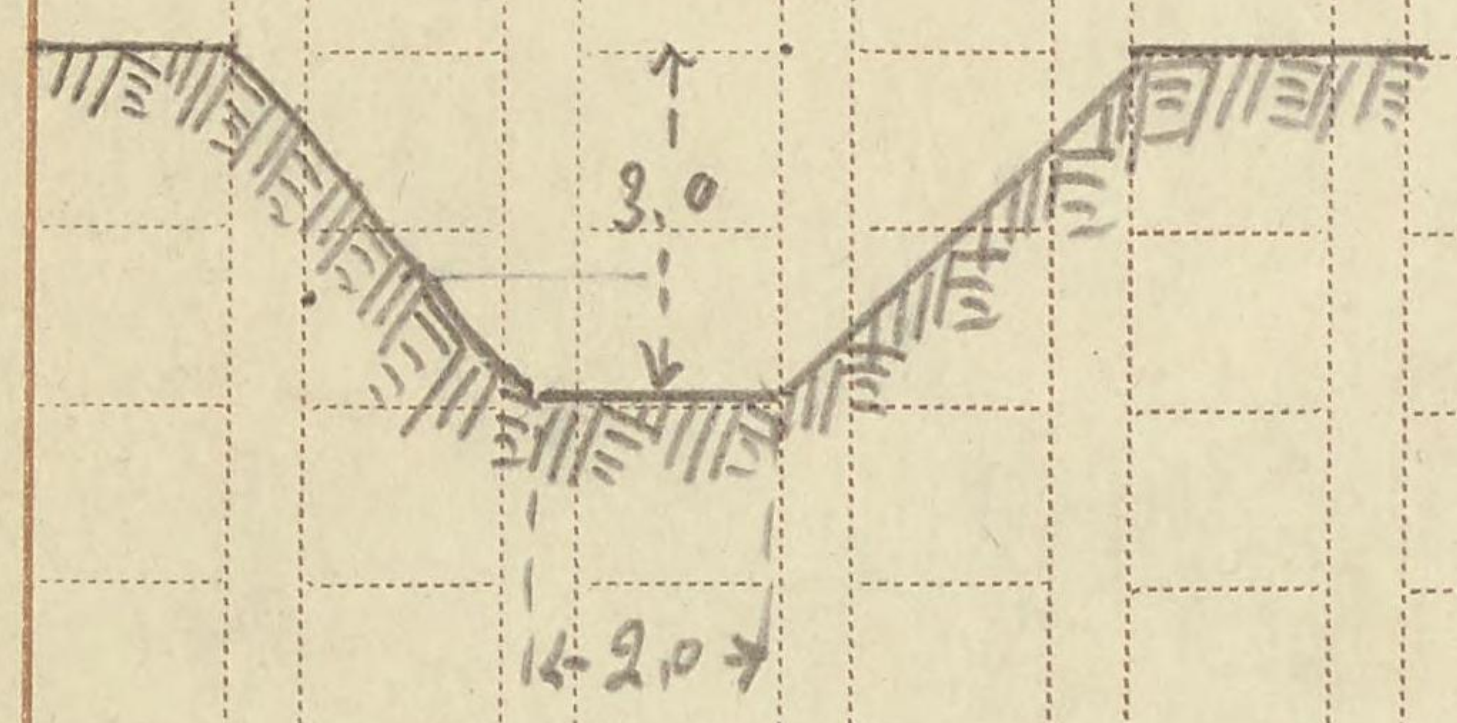
1/600



城例

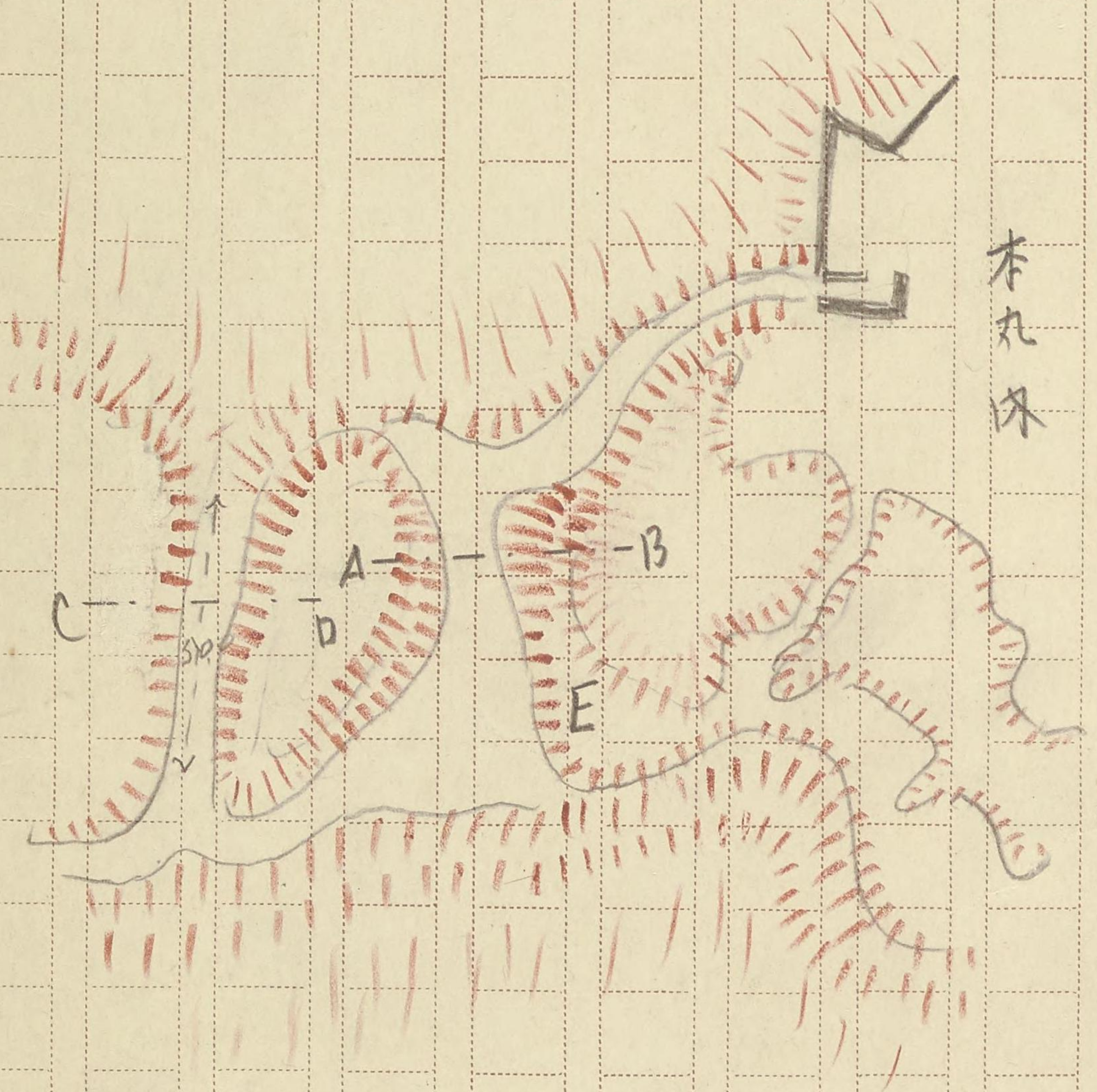
二一六五

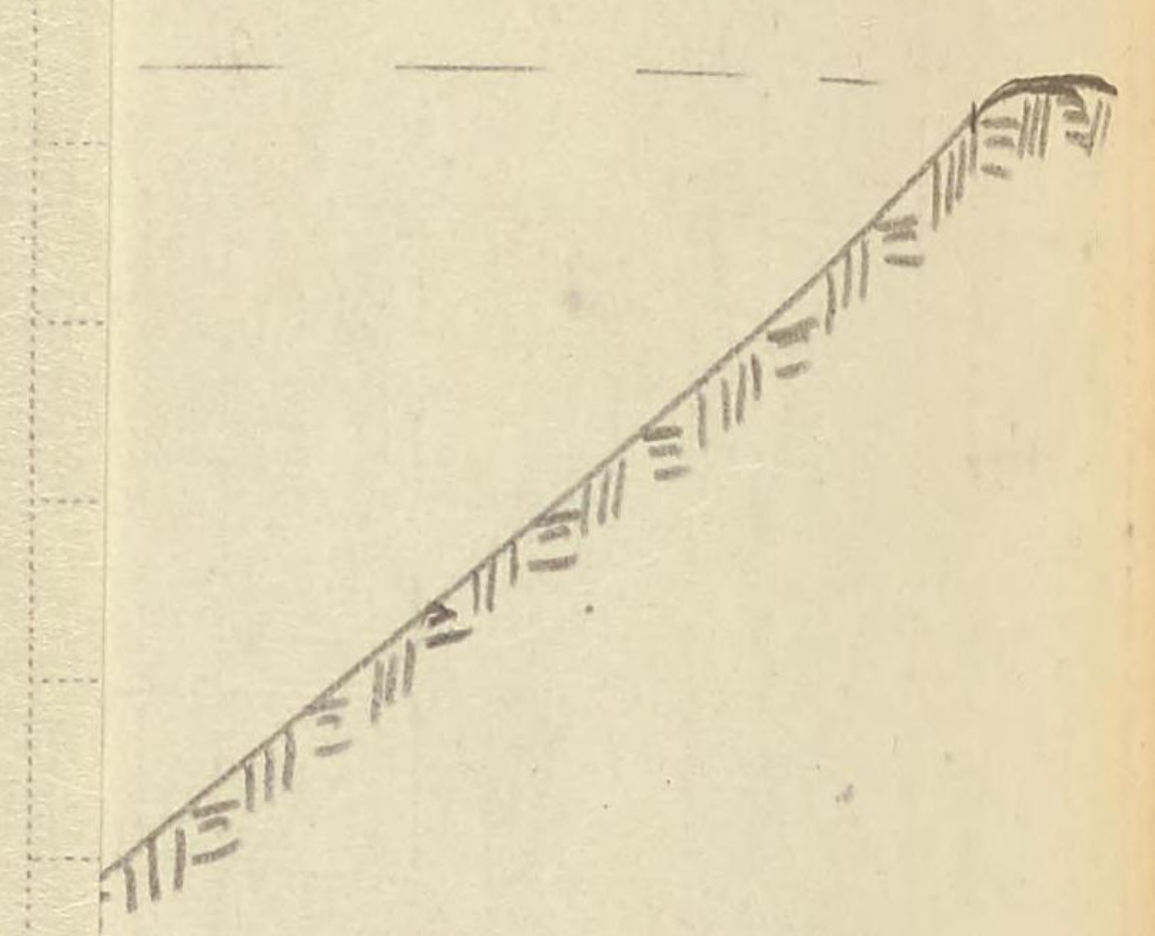
三、故に正面は堅固にして皆防護術は研究すべきの一要点なり今一例を本丸の西北部より其の西南部に至る地隍に付て見るに深さは一〇米内外にして両側は急斜面を為し其の頂上の部分は図上着色して示すが如く走りて本丸を囲繞せず而も頂上は地隍を為す其の長さ七〇米を左図の断面の鋭壕となしあり



陸軍、城、史、

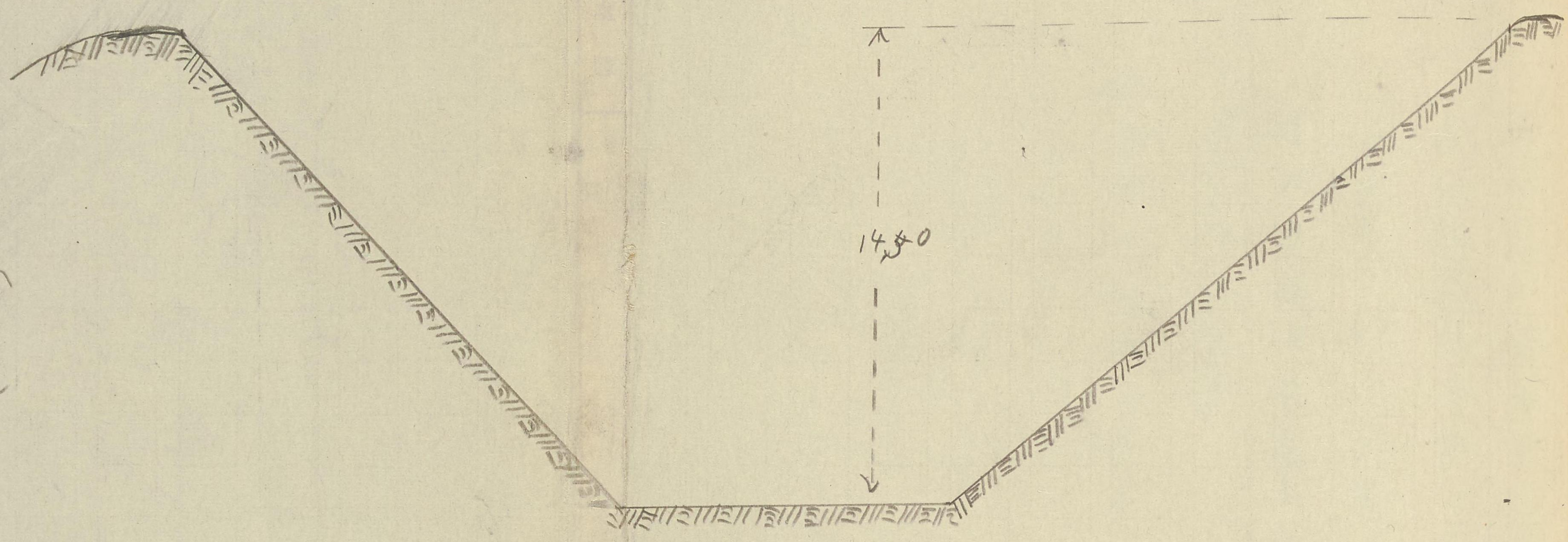
本丸の両方は工兵隊作業場に至る一條の山腰道ありし者を新にして本丸よりの出口に虎口及石垣を設けあるも其の以外の所は切割部を設け~~無~~て[illegible]部を隠蔽す



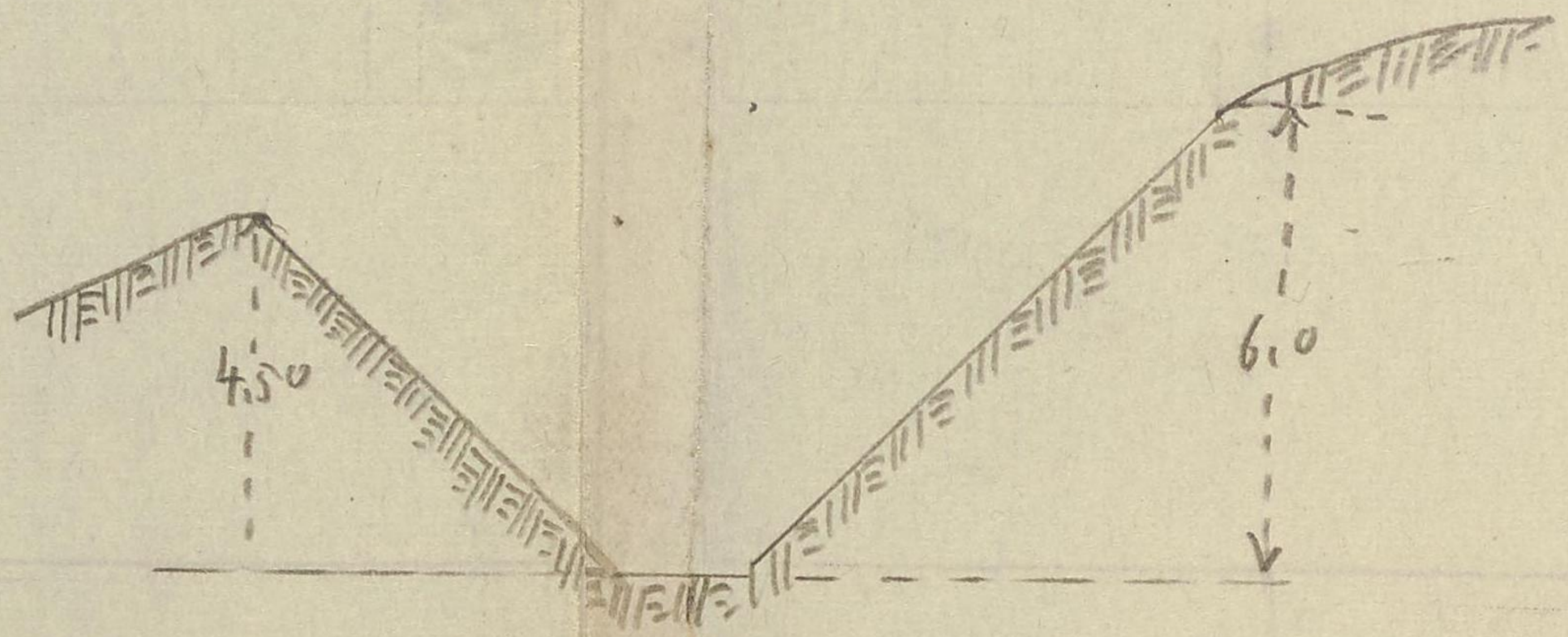


面断ノB　A
1/600

下部低クシテ大ナル障碍カナキ（測定セス）



面断ノD　C



二の丸の背面は自ら陸軍ヨリ馬場を作り大本営ヲ造リ其他諸等設物ありて旧態を変形しあるも大体ノ陸形ヲ留する如キ設備なく直ちに山地を連接せしが如し故に本城は背面の防備は正面に比し非常に力を入れありしを覚ゆ

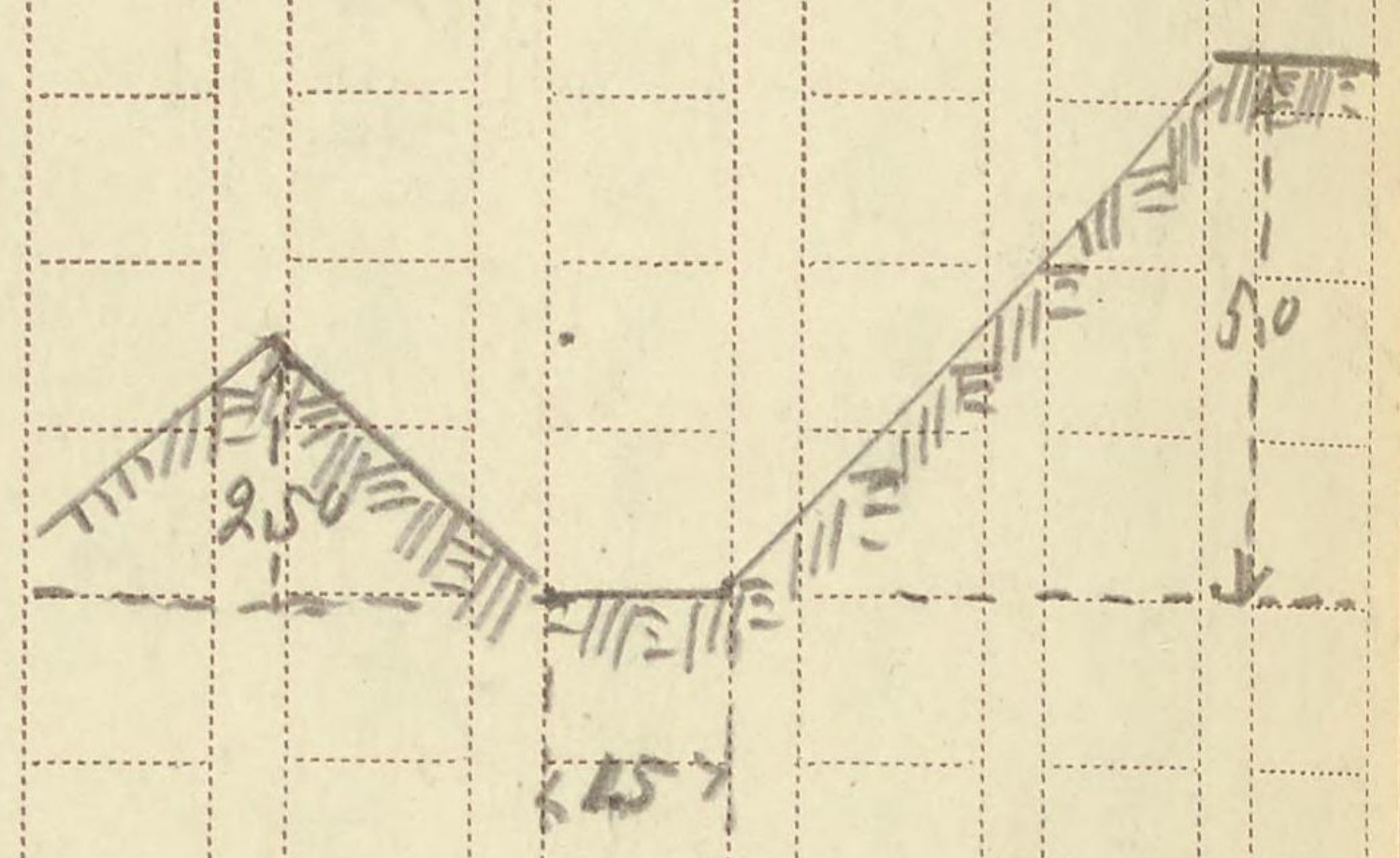
四、本城は山地に接近し正面に廣瀬川の大障碍を有するを以て前方大年寺山、楯岡、東照宮に及旧台の警務所の地等に前衛の設備を施す外大年寺山腹より西方鈎取に至る間に一種の工事を施しあり

1大年寺山の築城は十分之を測定するの時日を有せざりしも其の岩壁部の一部分の断面を図示せば左の如し.

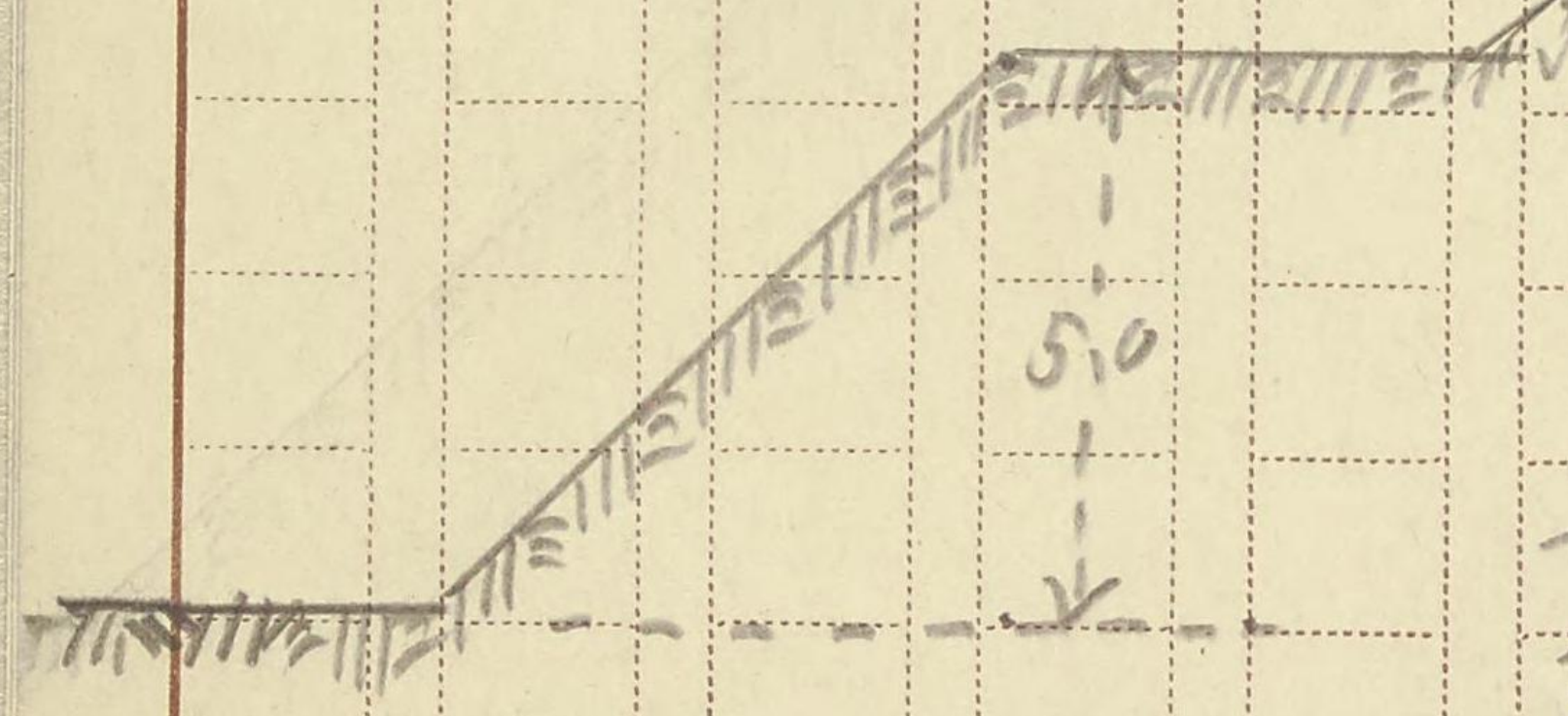
し.

陸軍、城、史、

大年寺山塁線断面
1/600

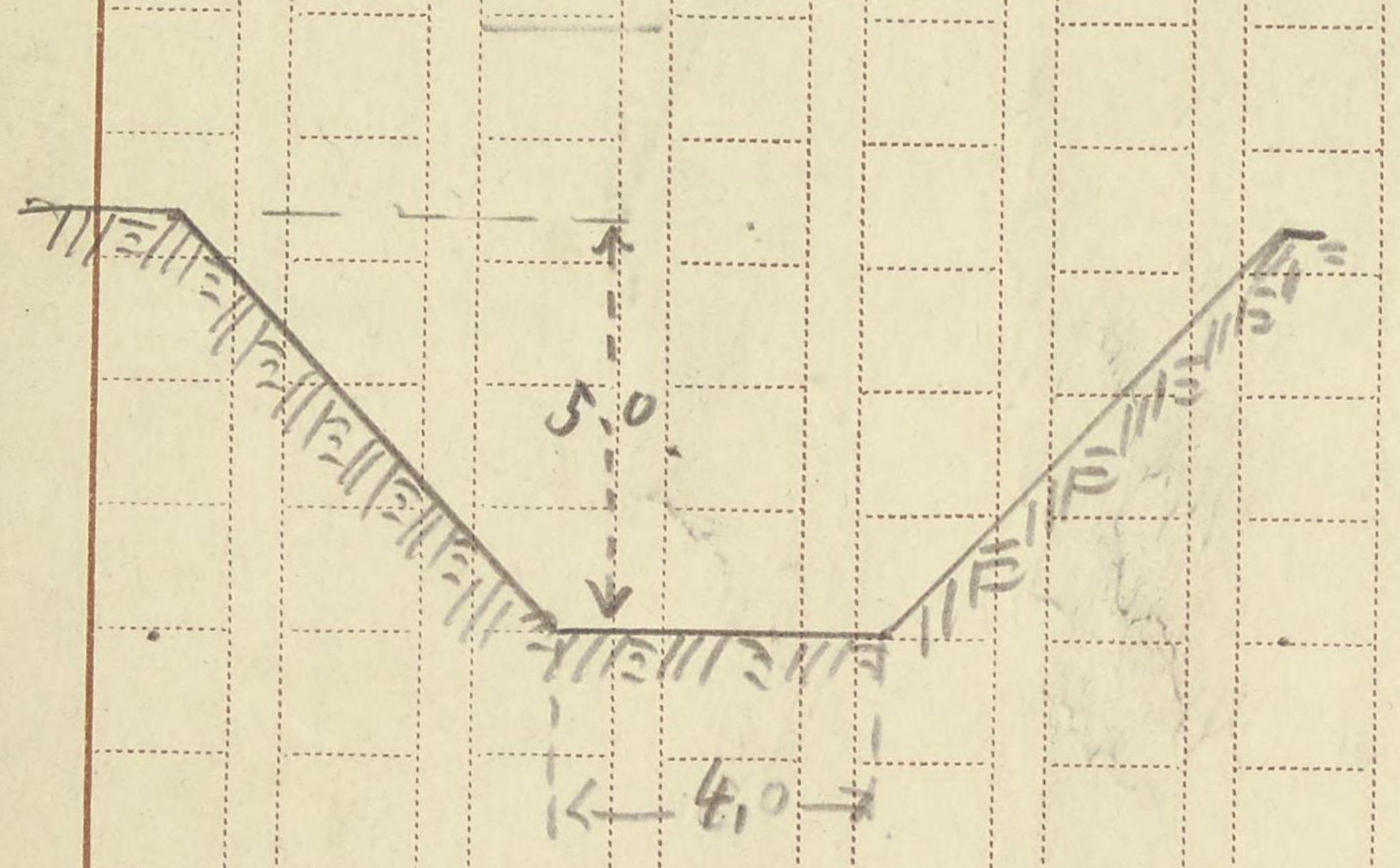


2、大年寺山腳より西方に連續する工事は其の一部分の断面を図示せば下の如し即ち壕にあらず堡壁にあらず、戦時此を堡壁と化する如く平時唯切断斜面を準備し置きたるならんか

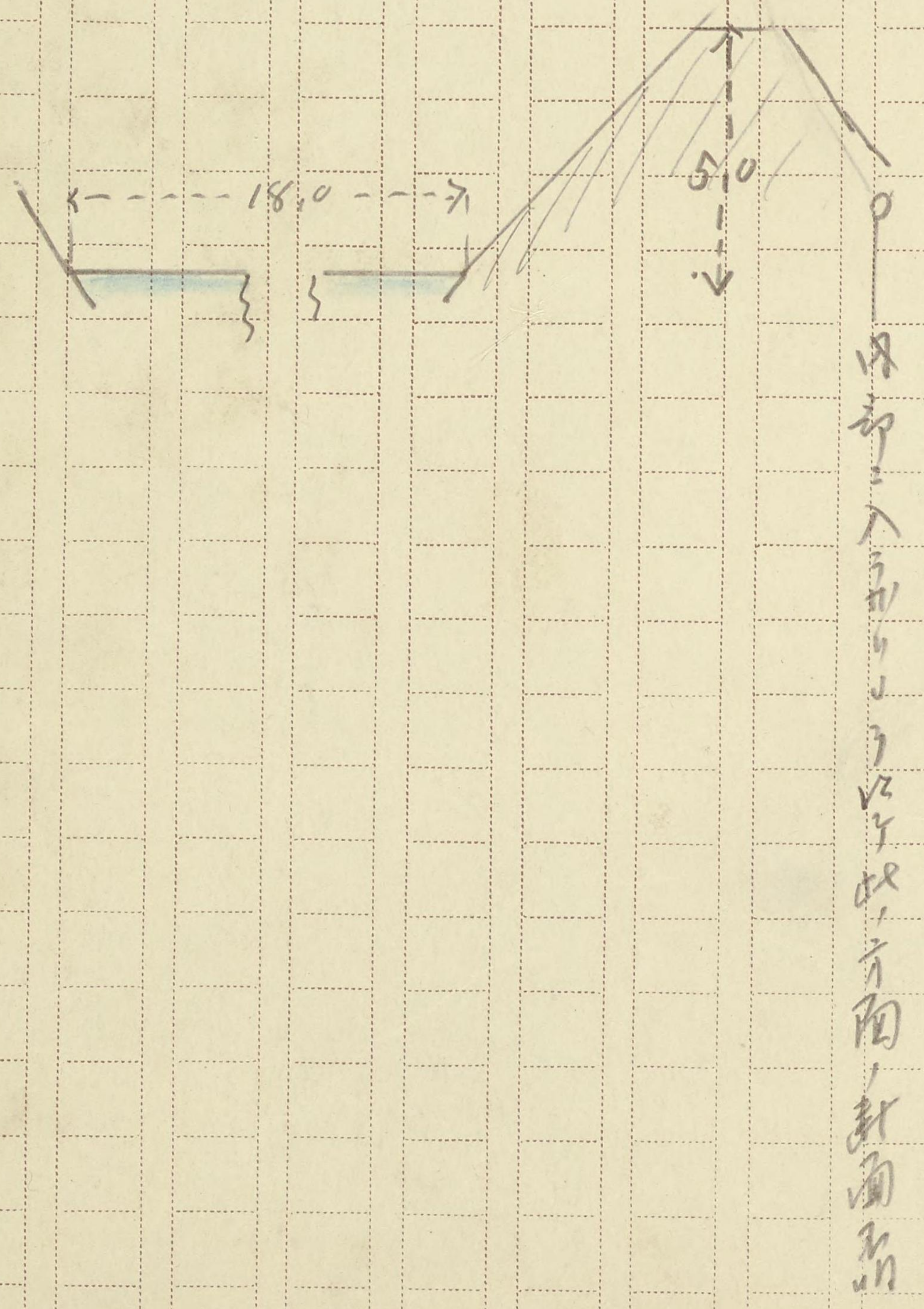


3、櫓周附近の地形は昔の面影なく地表は削られ古き所附の要害にて如何なる設備なりしか推定し難し

4、東照宮の高地は平地上十米立に在り北方（約四米）は高地に連亘せる道路で二万五千分一図に示せる如く断絶部を残存あり　其の断面次図の如し



5月6の警務所の所は其の経始は二方土手ヨリ一周の如くありしなるへく其の断面は


18.0
5.0
内部ニ入ラルヨリ此ノ方面ノ断面図

米澤城主変遷表

陸軍

# 米澤城主変遷表

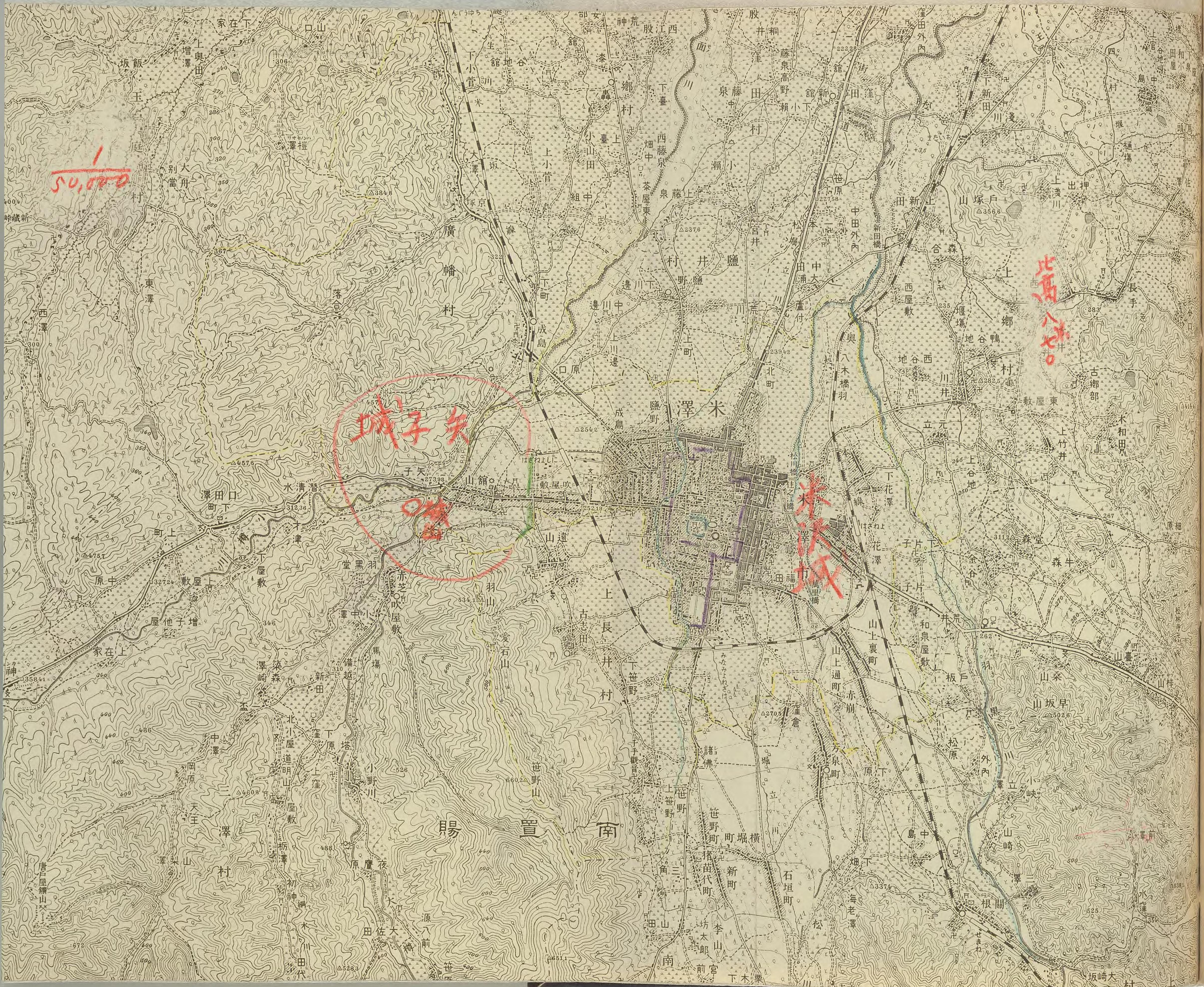
| | 藩主 | 城主 | 石高 | 期間 就封 | 期間 年限 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 長井城 | 長井大江氏 | 長井（大江）時広 | | 文治五年 | （7代）196年 | 下長井ハ父部始めて田塁を米沢に築きて居り長井左衛門尉と称す大江廣元ノ子 |
| | | 〃 泰秀 | | | | |
| | | 〃 時秀 | | | | |
| | | 〃 宗秀 | | | | |
| | | 〃 貞秀 | | | | |
| | | 〃 廣秀 | | | | 北朝ニ属ス |
| | | 〃 時春 | | 正平三年 | | |
| | | 〃 広房（宣広とも） | | 元中元年 | | 広房ノ時亡ぶとも云ふ、家譜に見えず、天授六年伊達宗遠長井郡を経略<br>伊達政宗（遠）に亡さる。 |
| 高畑城 | 伊達氏 | 伊達政宗（城代） | | 元中七年 | （8代）209年 | 高畑に居城を築く（高畑ハ米沢東北方約十二粁） |
| | | 〃 氏宗 | | | | 居城を舘山（米沢の西一里）に移す。 |
| | | 〃 持宗<br>〃 成宗 | | | | |
| | | 〃 尚宗 | | | | |
| | | 〃 植宗 | | 天文元年 | | 伊達郡西山城に移り住む |
| 矢子城 | | 伊達晴宗 | | 天文十七年（永禄年中） | | 米沢城を築き西山城より移り住む（此ノ頃ハ矢子城ト云フ） |
| | | 〃 輝宗 | | | | |
| | | 〃 政宗 | | 天正元年 | | 政宗岩手沢へ移る |
| 米沢（松ヶ崎）城 | 蒲生 | 蒲生郷安（城代） | | 月　年<br>慶長三年 | 8年 | 蒲生氏野州へ移封 |
| | | 直江兼続 | 三〇〇、〇〇〇石 | 月　年<br>慶長六年 | 4年 | 蒲生の跡を上杉景勝ノ臣直江を封ず |
| | 上杉氏 | 上杉景勝 | 三〇〇、〇〇〇石 | 月　年<br>元和九年 | （13代）269年 | 旧封一二〇、〇〇〇石を減じ上杉をして米沢一城のみを保たしむ |
| | | 〃 定勝 | 〃 | | | |
| | | 〃 綱勝 | 〃 | | | 嗣ナク没収セラレントス |
| | | 〃 綱憲 | 一五〇、〇〇〇石 | | | |
| | | 〃 吉憲 | 〃 | | | |
| | | 〃 宗憲 | 〃 | | | |
| | | 〃 宗房 | 〃 | | | |
| | | 〃 重定 | 〃 | | | |
| | | 〃 治憲 | 〃 | 明和四年 | | 上杉鷹山ト云フ |
| | | 〃 治広 | 〃 | | | |
| | | 〃 斉定 | 〃 | | | 文化　重定ノ勝熙ノ、斉定ヲクと。 |
| | | 〃 斉憲 | 〃 | | | |
| | | 〃 茂憲 | 一八〇、〇〇〇石 | 明治二年 | | |
| | | 〃 憲孝 | | | | |

陸軍

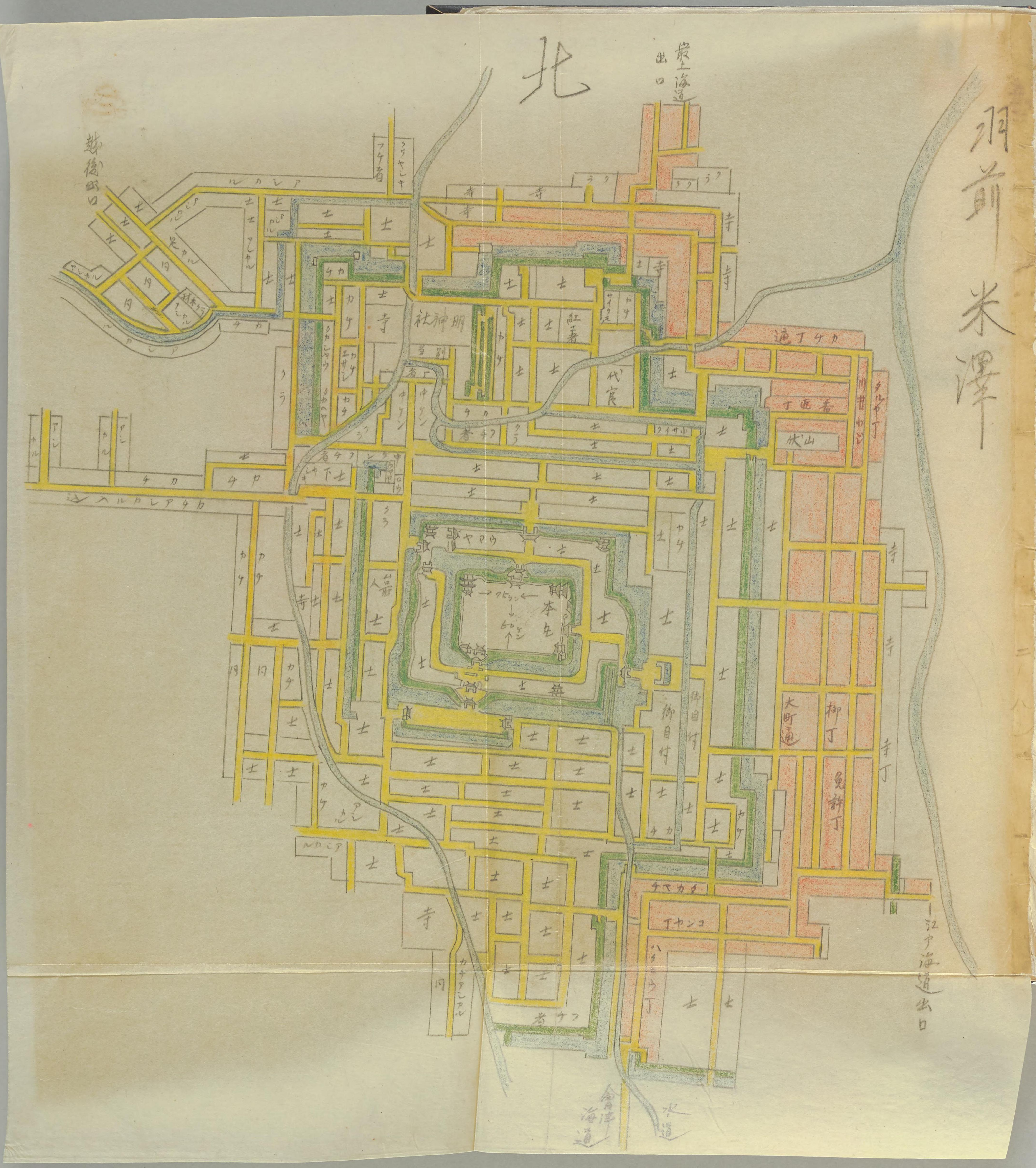
米沢城

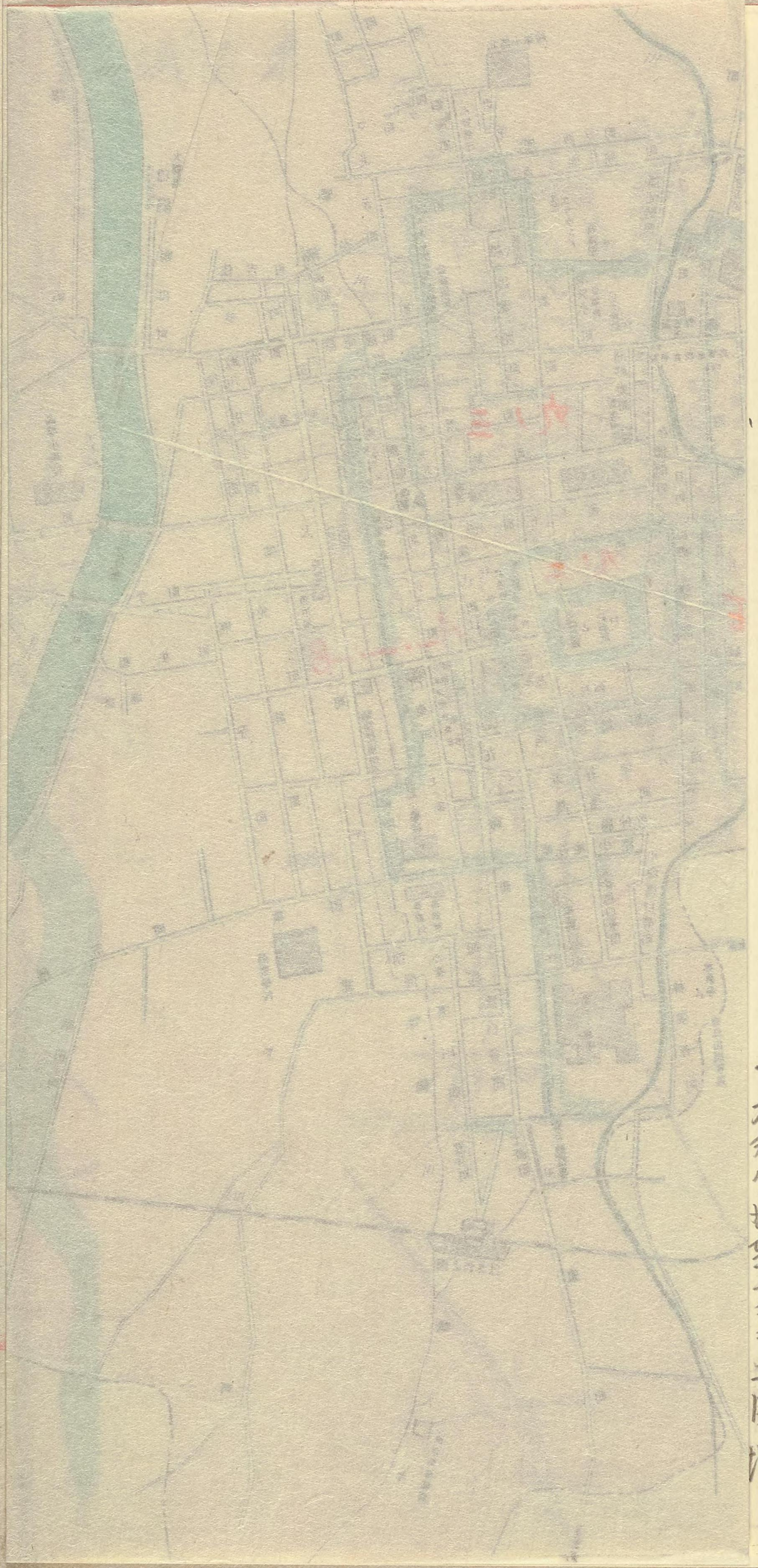
矢子城

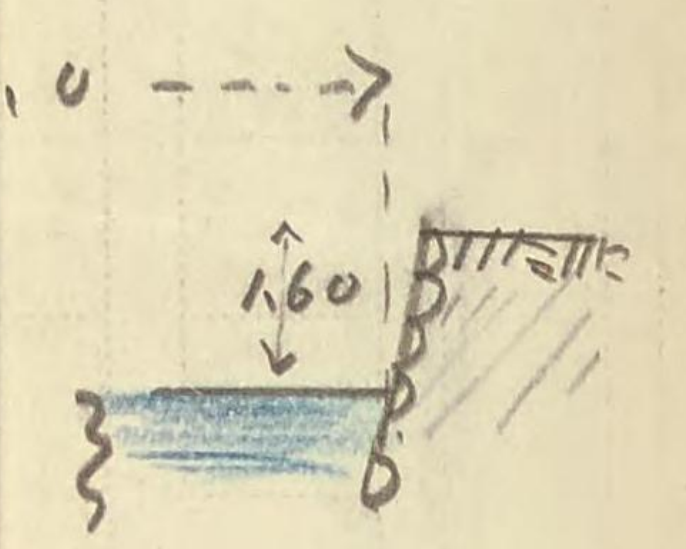
二一八四


1/50,000
矢子城
米沢城
北高 八木七
米澤
南置賜
矢子
館山
廣幡村
鹽井村
上郷村
山上通町

羽前 米澤

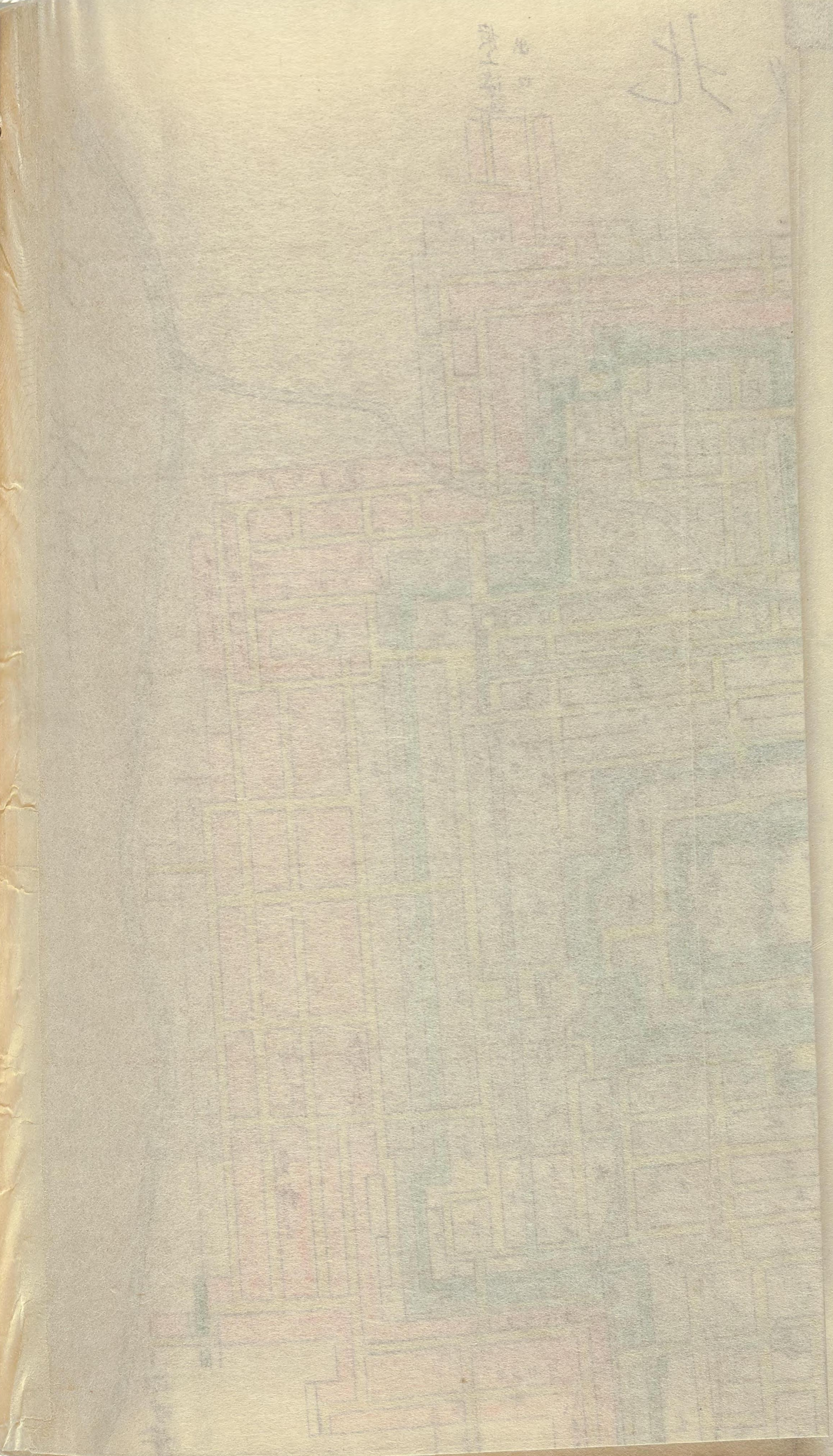

北
羽前米澤
最上海道出口
越後出口
江戸海道出口
會津海道
水道
本丸
75ケン
60ケン
明神社
代官
紅番
サイク丁
番匠丁
伏山
カタ丁通
川井小路
タルヤ丁
大町通
柳丁
免許丁
寺丁
御目付
ウマヤ
コンヤ丁
ハタゴ丁
カタヤ丁
フナ者
小サイク
アレカル
カナアンカル
寺
士
カケ
クラ
中ケン
足軽

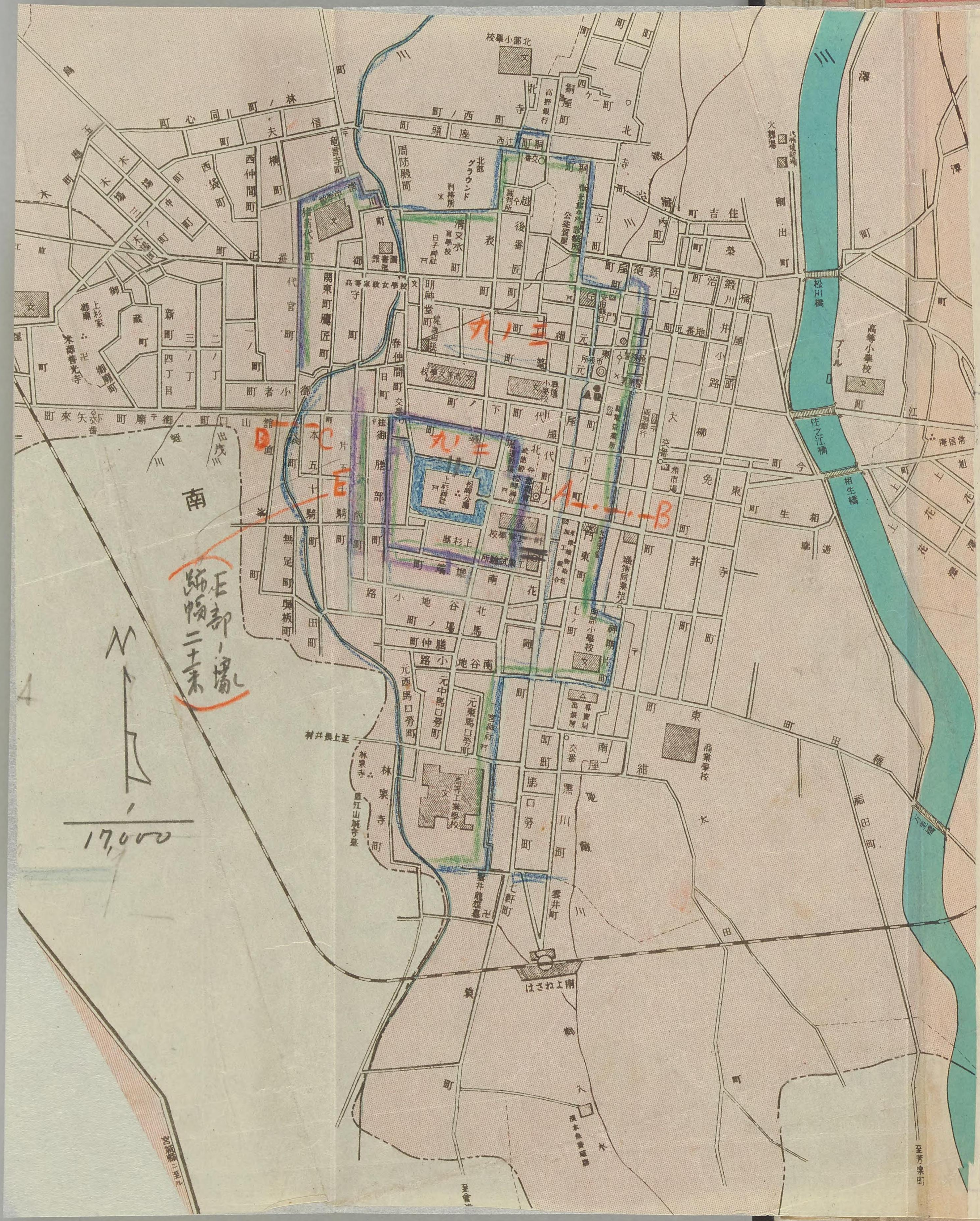




現状

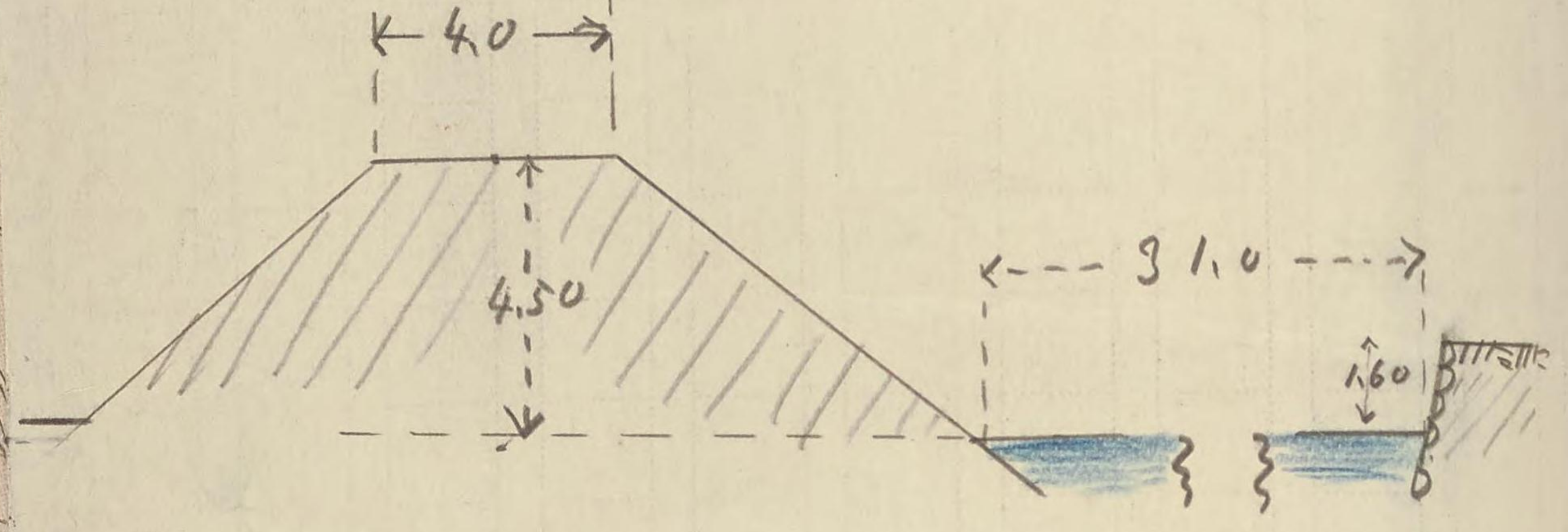
一、本丸ハ運第十千モ土風場



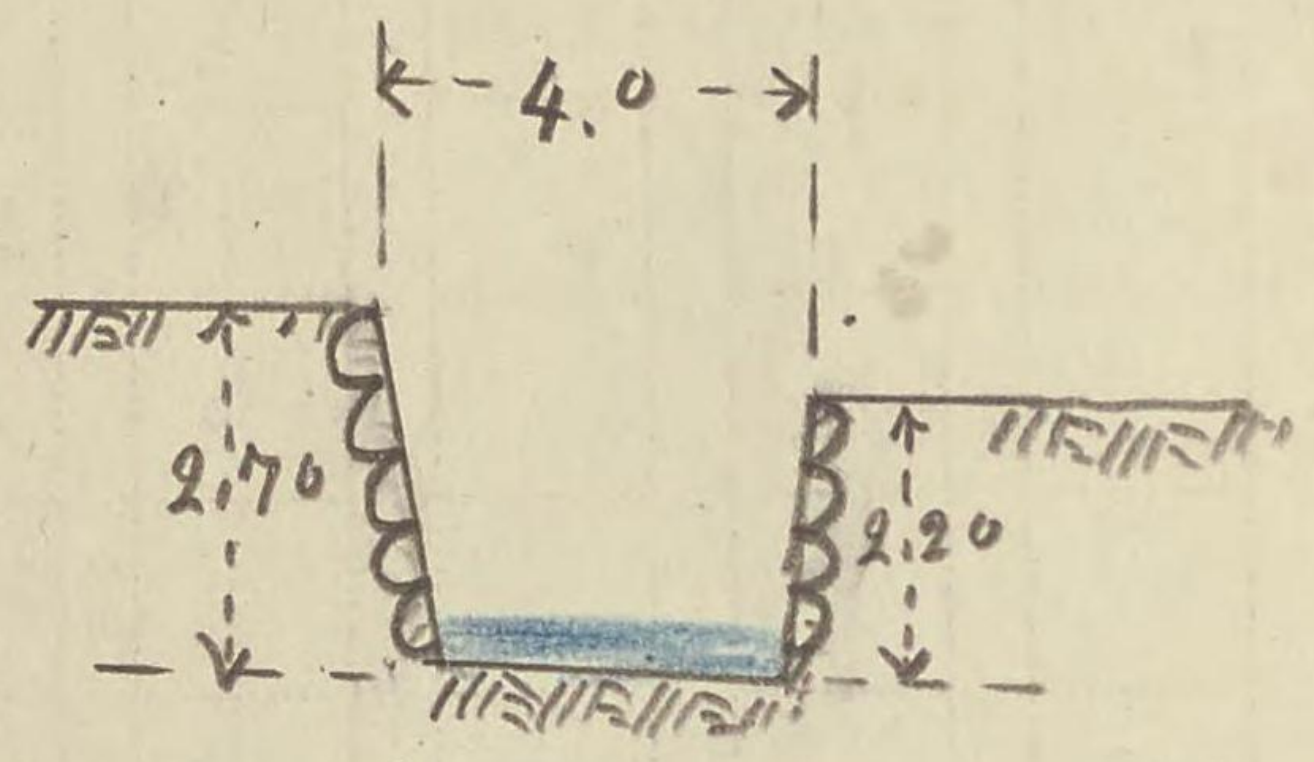

三ノ丸
二ノ丸
A
B
C
D
E
E部ノ濠跡幅二十米
N
1/17,000

# 米沢城

AB ノ断面
1/200


4.0
4.50
31.0
1.60

DC 堀立川ノ断面
1/200



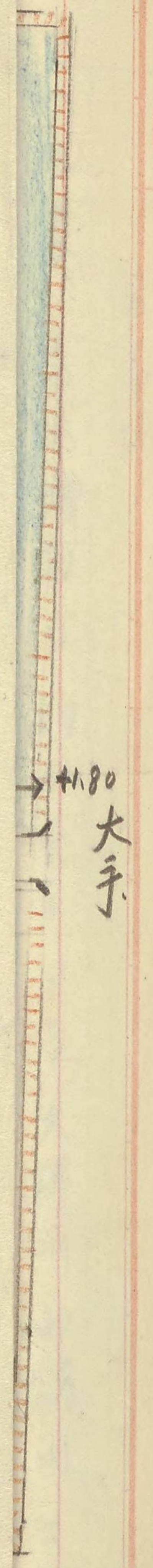
現状

一、本丸ハ運動場トナルモ土囲堀等大部現存ス

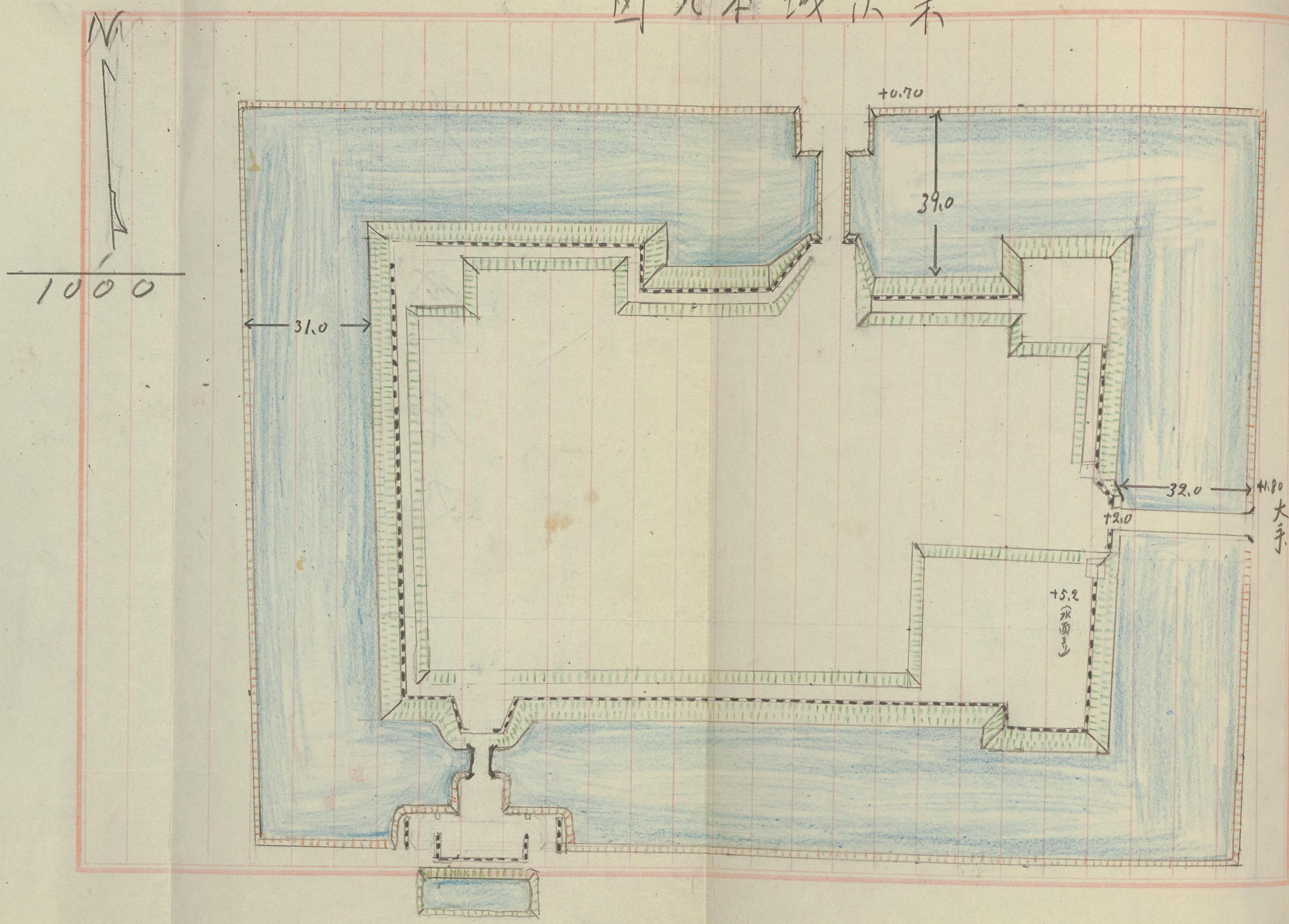
二、二ノ丸堀、土囲等全亡ス

三、三ノ丸ノ堀、土囲等所々残レリ

米沢城 本丸



# 米沢城本丸図


N
1000
+0.70
39.0
31.0
32.0
+1.80
+2.0
大手
+5.2
（水面ヨリ）

矢子城

一、位置　米沢城西方約四キロニシテ大樽川小樽川ニ挾マル高地端ニ在リ

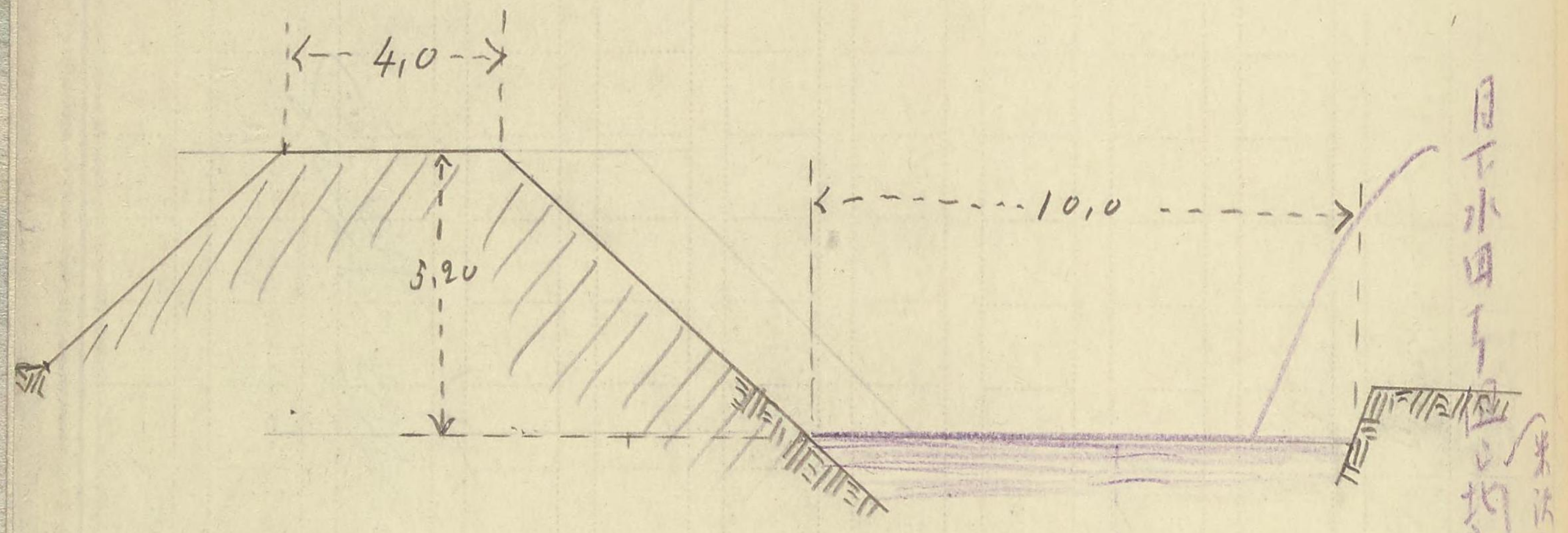
二、城郭ノ範囲　右矢子城ヲ目下城山ト称シ此ノ高地端ニリ西北方約二百米ニ切割ヲ設ケテ断絶シアリ（其ノ西北方ニ尚高キ高地脈連）（且ツアルヲ以テ其ノ最高所（羽黒堂西方）ニハ設備シアルノナラント思ハルルモ荊棘叢樹繁茂シ且降雨ノ為至ルコトヲ得ス故ニ時機ヲ得ハ尚偵察ノ要アリ）

其ノ断絶部ノ状態ハ付葉ニ示ス

居館ハ館山（城山ノ東方）ナル現今ノ部落ニ在リ故ニ館山東端ニ南北ニ走レル土囲及濠モ今尚存ス（五万分一図ニ緑色ニテ塁跡ヲ示ス）其ノ現存セル土囲ノ断面次葉図ノ如シ

## 館山土囲断面図

1/200

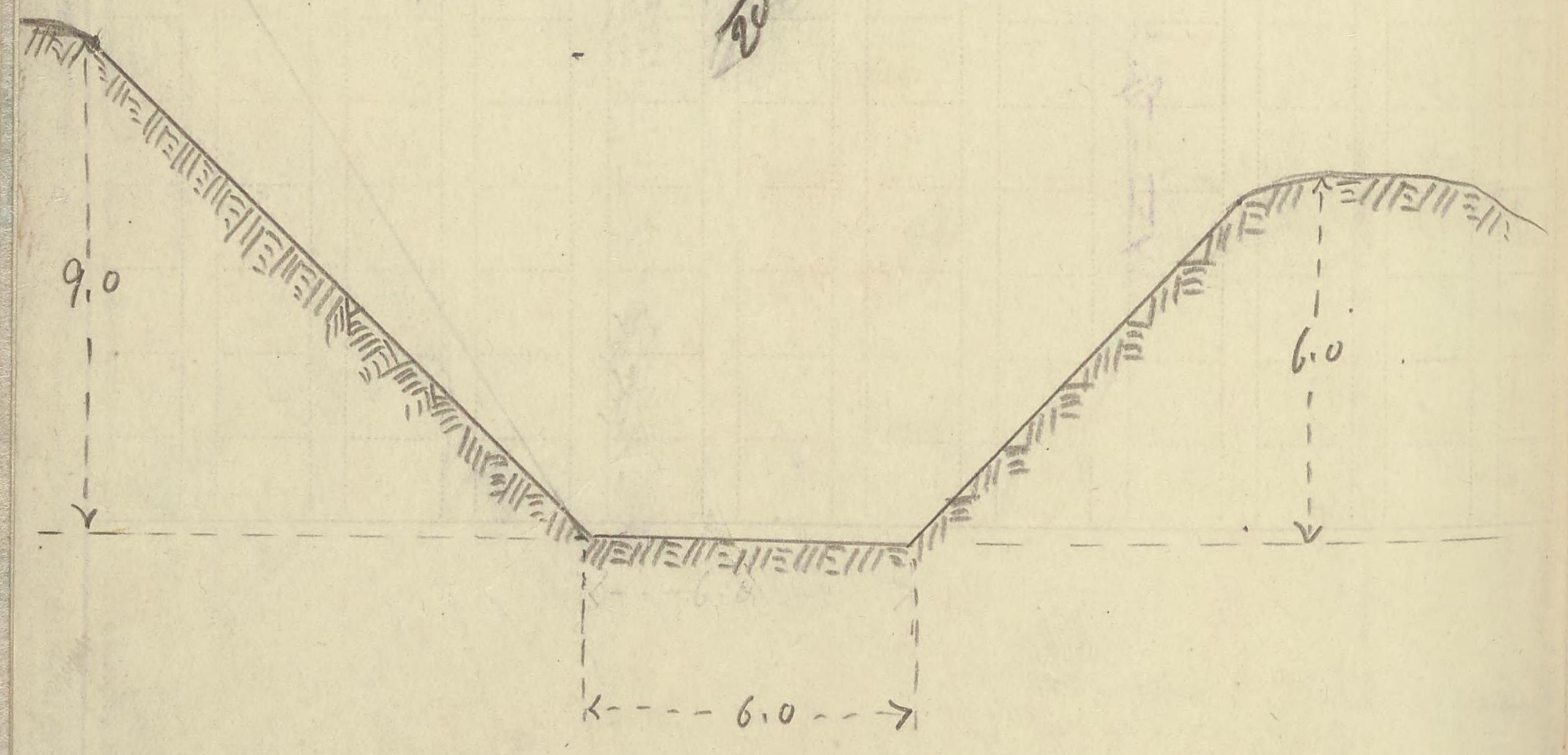


目下水田タリ但シ北部ノ方ハ乾燥ス

米沢ノ館山迄ハ

## 矢子城西北断絶部

1/200



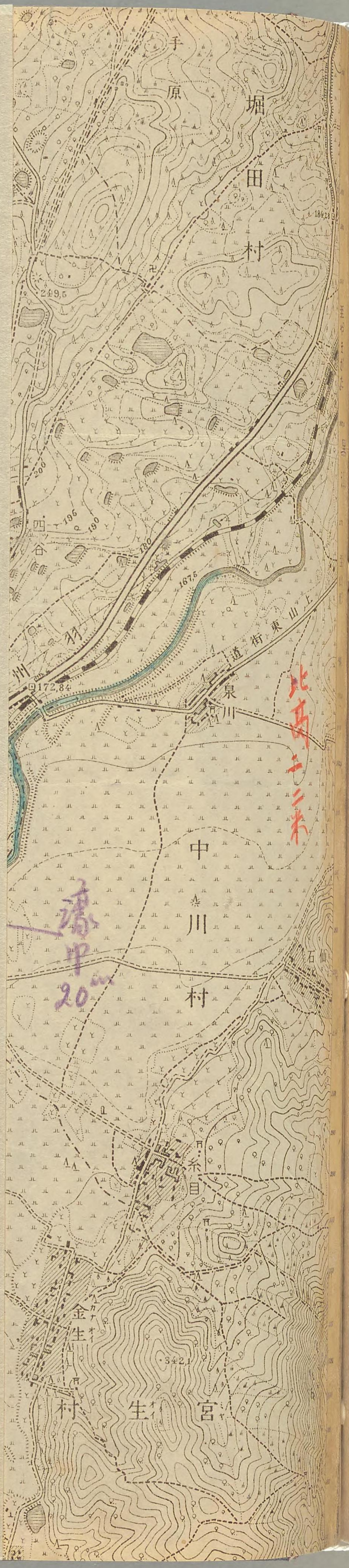
純能見

# 上ノ山城主変遷表

| 藩主 | 城主 | 石高 | 期 至 | 間 年限 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 上 | 上山最上某 | | 正平十一年 | | 上山は最上氏山形へ入部の後一族の者此處に居たるものの如し 最上家譜に上山の名見ゆ、然れども代々の城主の名不明なり |
| | 〃満兼 | | 永享頃 | | 上山の鼻祖なりと |
| 山 | 〃 | | | | |
| 最 | 〃義房 | | 永正中 | ? | 義房は伊達氏に屈したるものか。 |
| 上 | 〃義忠 | | 天文二年 | ? | 武衛義忠之を築くと一説に云ふ |
| 氏 | 〃義節 | | | | |
| | 〃義政 | | 天正八年 | | 伊達に加担し最上の将里見氏に亡さる。 |
| 最 | 里見越後守 | | 同年 | | 最上里見氏は上山領を賜る。 |
| 上 | 〃民部 | | 慶長五年 | 42年 | 最上義光の勘気を蒙り里見一門退く |
| 氏 | 上山最上義直（一云[illegible]） | 二一,〇〇〇石 | 元和八年 | | 義光の五男<br>最上家改易の時共に亡ぶる。 |
| 能見松 | 能見松平重忠 | 四〇,〇〇〇石 | 同年 | 6年 | 駿府城代より |
| 平 | 〃重直 | 〃 | 寛永三年 | | 摂津三田へ |
| 松平 | 松平忠知 | 四〇,〇〇〇石 | 同年<br>寛永五年 | 3年 | 地名辞書には昌勝とある 新知 |
| 土 | 土岐頼行 | 二五,〇〇〇石 | 同年 | （3代）64年 | 相馬より |
| 岐 | 〃頼長 | 〃 | | | |
| 氏 | 〃頼隆（頼殷） | 〃 | 元禄四年 | | 大坂城代となる |
| 幕領 | | | | | |
| | 藤井松平信通 | 三〇,〇〇〇石 | 元禄十年 | | 庭瀬より・新に上山城を築きて住む。 |
| 藤 | 〃長恒 | 〃 | | （10代）173年 | |
| | 〃信将 | 〃 | | | |
| 井 | 〃信亨 | 〃 | | | |
| | 〃信古 | 〃 | | | |
| 松 | 〃信愛 | 〃 | | | |
| 平 | 〃信行 | 〃 | | | |
| 氏 | 〃信宝 | 〃 | | | |
| | 〃信庸 | 〃 | | | |
| | 〃信安 | 〃 | 明治二年 | | |

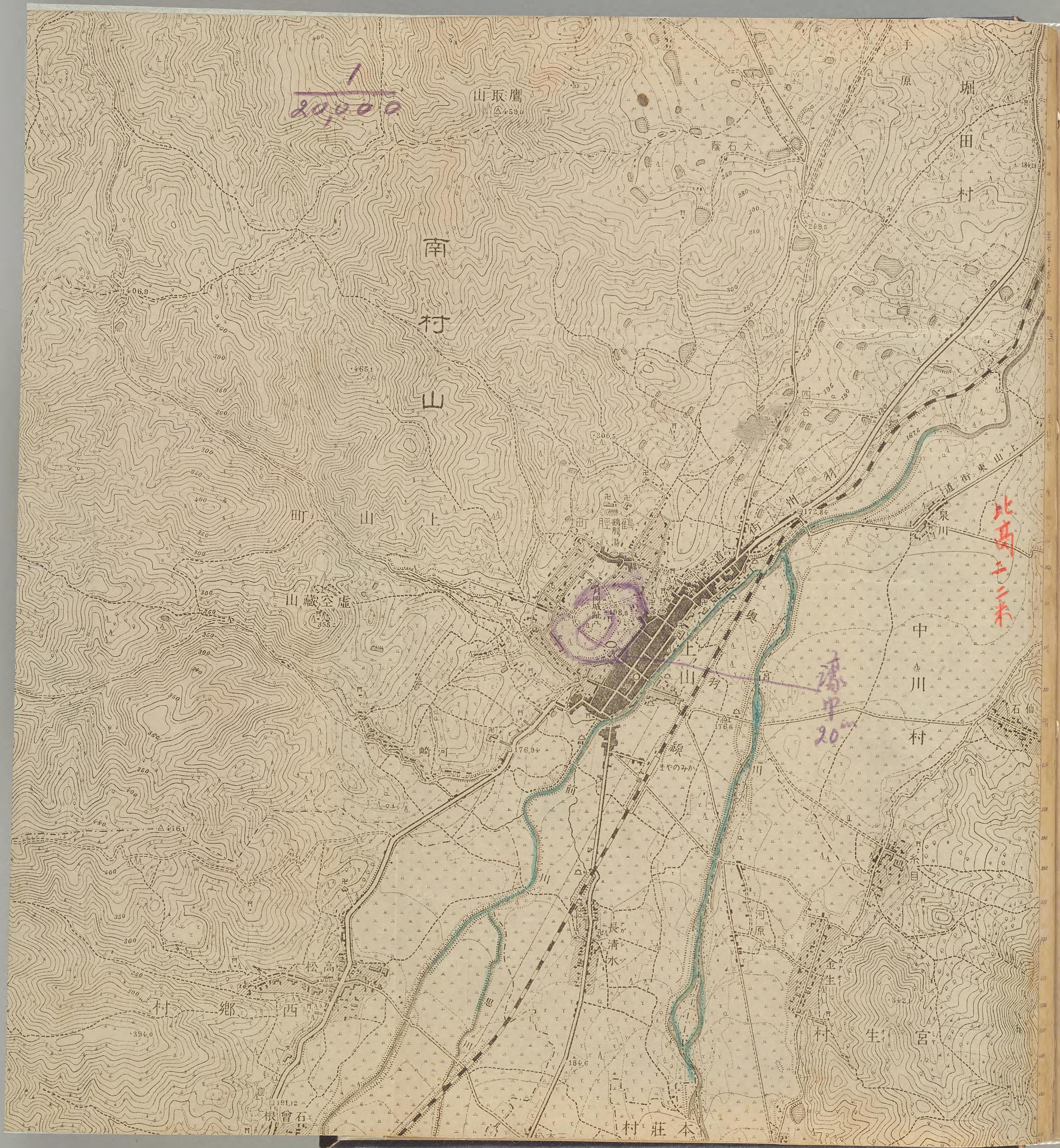
陸軍

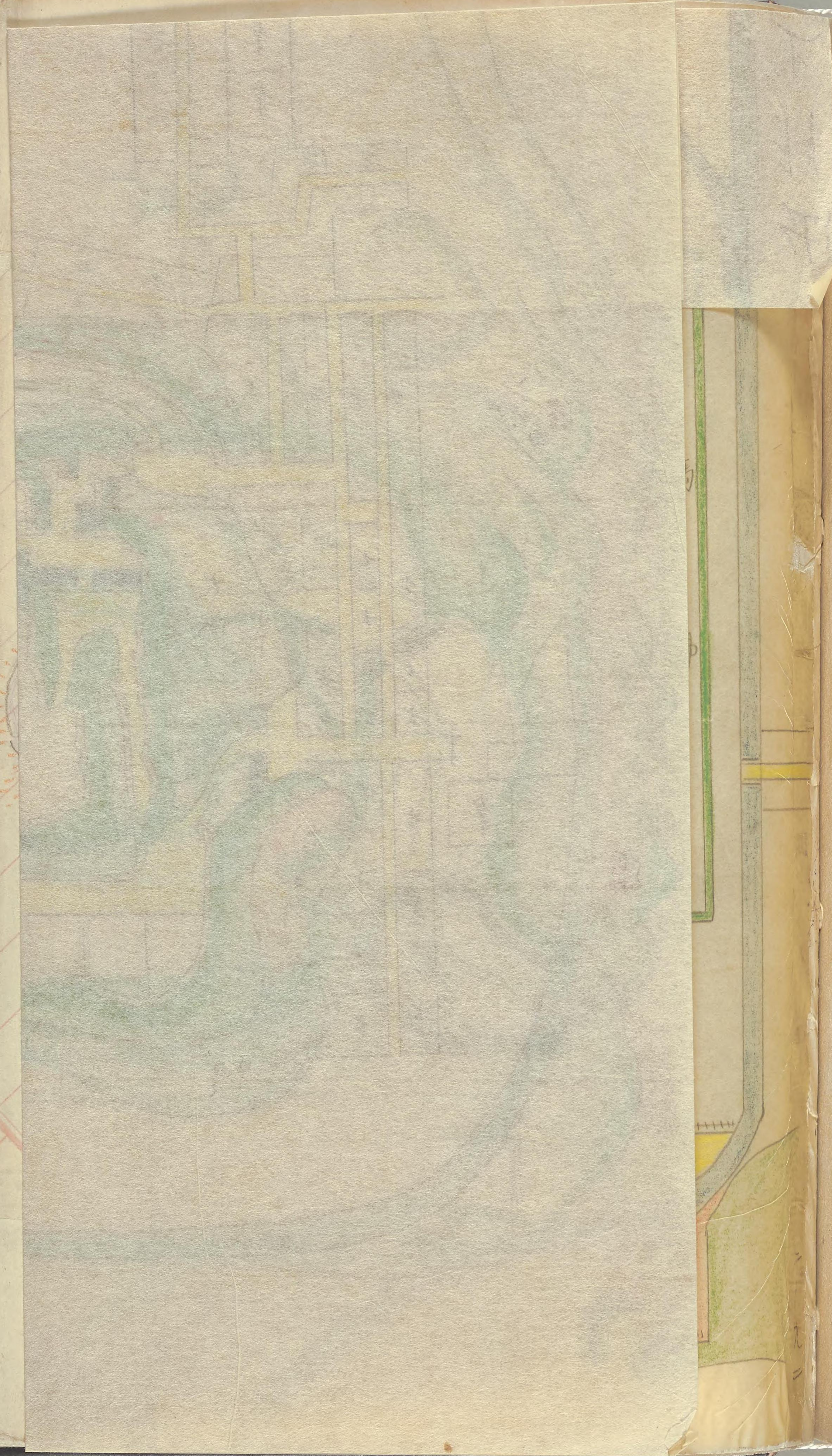
上ノ山城


手原
堀田村
四ツ谷
羽州
249.5
172.84
上山東街道
泉川
中川村
石仙
糸目
金生村
宮生村
342.1

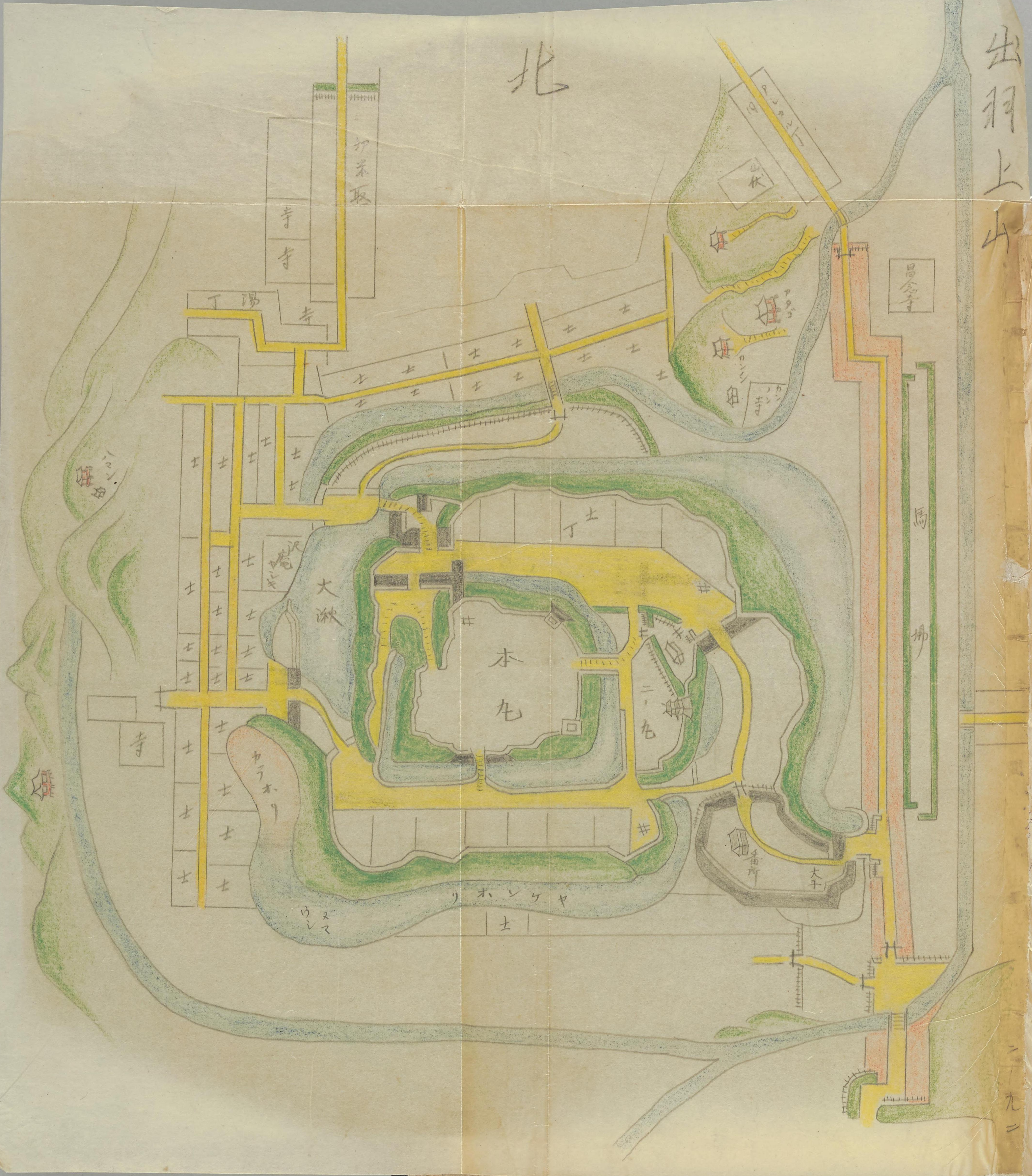
北西二二米

濠中
20m

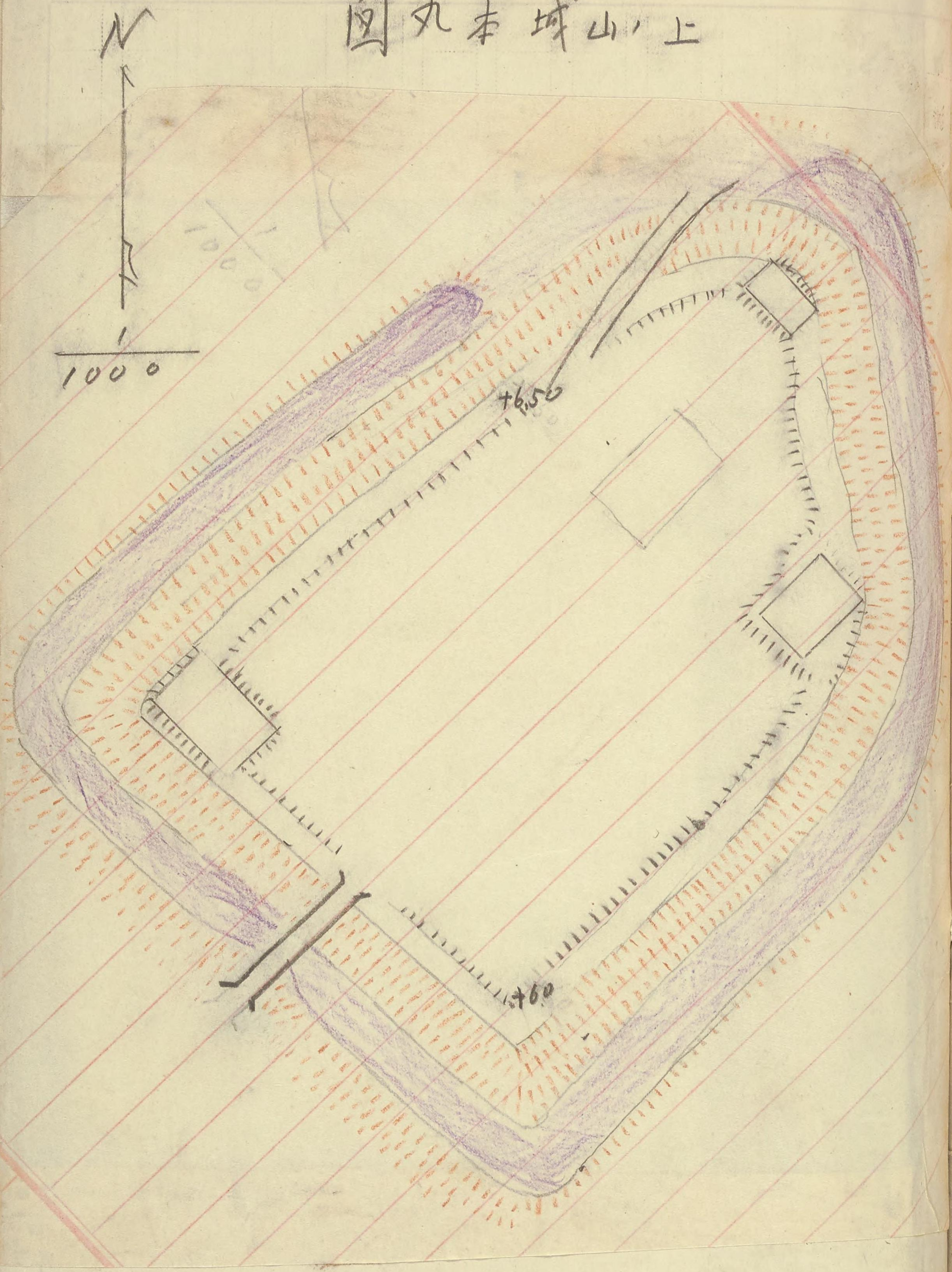

1/20,000
鷹取山
△459,0
大石蔭
手原
堀田村
184,28
南村山
上山町
406,9
465,1
300,5
鶴脛町
鶴脛湯
月岡城趾
198,8
羽州街道
172,84
上山東街道
泉川
比高一二米
上山
奥羽線
かみのやま
濠巾20m
176,6
中川村
仙石
虚空蔵山
355
河崎
176,94
前川
須川
△461
長清水
河原
糸目
金生
宮生村
高松
西郷村
394,0
184,6
191,12
石曾根
本荘村



# 出羽上山


北
切岸坂
寺
寺
丁場
寺
アシャル丁
山伏
昌念寺
アタゴ
カンノン
カンノン寺
士
士丁
ハマン田
沢庵
ミキ
大湫
本丸
二ノ丸
馬場
カラホリ
ヤケンオリ
ヌマ
ウシ
番所
大手
寺

# 上ノ山城本丸図


N
1000
+6.50
+6.0

[illegible]

# 山形城主変遷表

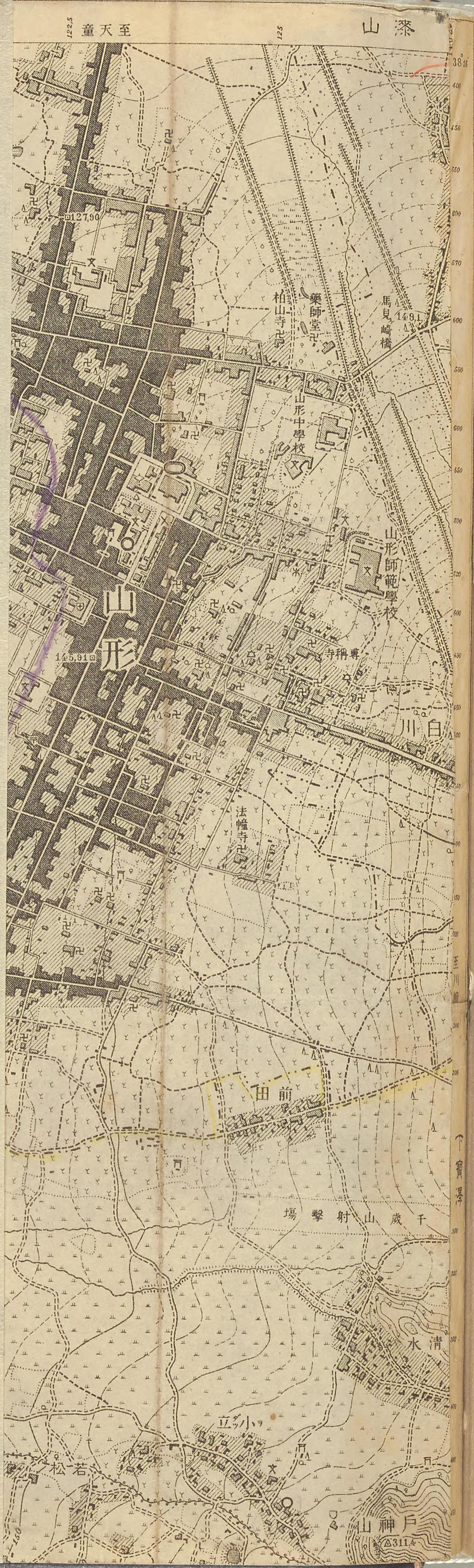
| 藩主 | 城主 | 石高 | 期間 年間 | 期間 年限 | 摘要 |
|---|---|---|---|---|---|
| 大 | 大野東人 | | 天平年間 | | 山形城は天平年間大野東人創築せると云ふも廣弦の説のみ<br>俚諺傳ふる所なると云 |
| 最上氏 | 斯波兼頼 | | (延文元年)<br>正平十一年 | (13代) 267年 | 最上祖中山形へ入部 山形城を築き、子孫最上を称し此處に居る |
| | 最上直家 | | | | |
| | 〃満直 | | | | |
| | 〃満家 | | | | |
| | 〃義春 | | | | |
| | 〃義秋 | | | | |
| | 〃満氏 | | | | |
| | 〃義淳 | | | | |
| | 〃義定 | | | | |
| | 〃義守 | | | | |
| | 〃義光 | 五七〇、〇〇〇石 | | | |
| | 〃家親 | 〃 | | | |
| | 〃義俊 | 〃 | 元和七年 | | 改易 |
| 幕領 | | | 〃年<br>元和八年 | | 鳥居忠政奉命依に城請取ほ入部ありしが〃二年改易し此地を賜る. |
| 鳥居氏 | 鳥居忠政 | 二〇〇、〇〇〇石 | 〃年 | (2代) 15年 | 磐城平より |
| | 〃忠春 | 〃 | 寛永十三年 | | 高遠へ |
| 保科氏 | 保科正之 | 二〇〇、〇〇〇石 | 〃年<br>〃廿年 | 8年 | 高遠より<br>若松へ |
| 幕領 | | | 〃年<br>正保元年 | 2年 | |
| 松平 | 松平直基 | 一〇〇、〇〇〇石 | 正保元年<br>慶安元年 | 5年 | 大野より<br>姫路へ |
| 松平 | 松平忠弘 | 一五〇、〇〇〇石 | 〃年<br>寛文八年 | 21年 | 姫路より〔地名辞書に依れば慶安元年松平忠明入部、二代を経たりと云ふも寛政重修諸家譜には忠弘慶安元年入部、寛文八年転封の由見ゆ、今これによる〕<br>宇都宮へ |
| 奥平 | 奥平昌能 | 九〇、〇〇〇石 | 〃年 | (2代) 18年 | 宇都宮より |
| | 〃昌章 | 〃 | 貞享二年二月 | | 宇都宮へ |
| 堀田 | 堀田正仲 | 一〇〇、〇〇〇石 | 〃年<br>貞享三年 | 2年 | 古河より<br>福島へ |
| 松平 | 松平直矩 | 一〇〇、〇〇〇石 | 〃年<br>元禄五年 | 7年 | 日田より<br>白川へ |
| 松平 | 松平忠弘 | 一〇〇、〇〇〇石 | 〃年 | (2代) 9年 | 白川より 〃五年七月白川一五〇、〇〇〇石の地没收八月山形城を賜る、十二月廿日 (家臣騒擾のため)<br>孫忠雅に譲る。 |
| | 〃忠雅 | 〃 | 元禄十三年 | | 備後福山へ |
| 堀田氏 | 堀田正虎 | 一〇〇、〇〇〇石 | 〃年 | (3代) 47年 | 福島より |
| | 〃正春 | 〃 | | | |
| | 〃正亮 | 〃 | 延享三年 | | 佐倉へ |
| 松平 | (大給)<br>松平乗佑 | 六〇、〇〇〇石 | 〃年<br>明和元年 | 19年 | 佐倉より<br>大坂城代となり封を三河西尾に封さる |
| 幕領 | 〃 松平正容 | | 〃年<br>明和四年 | | 地名辞書には山形城は正容に附されたりと見ゆるも正容とは如何なる人か会津城主なる正容は享保十六年に死せる人にて明和以前の人なり |
| 秋元氏 | 秋元涼朝 | 六〇、〇〇〇石 | 明和四年 | (4代) 89年 | 川越より |
| | 〃永朝 | 〃 | | | |
| | 〃久朝 | 〃 | | | |
| | 〃志朝 | 〃 | 弘化二年十一月 | | 館林へ |
| 水野 | 水野忠精 | 五〇、〇〇〇石 | 弘化三年 | (2代) 20年 | |
| | 〃忠弘 | 〃 | 明治二年 | | 近江州朝日山へ |

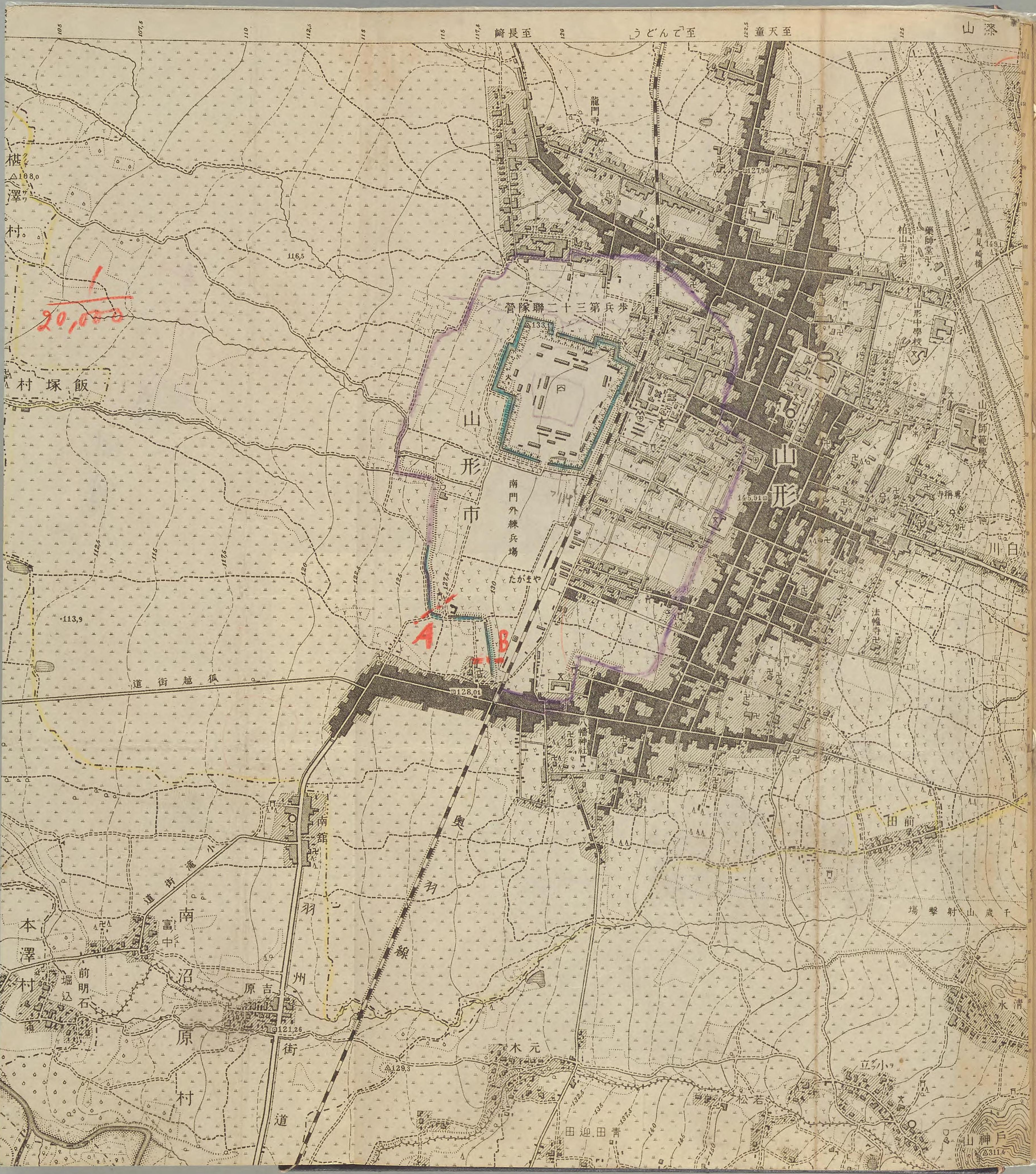
陸軍

山形城

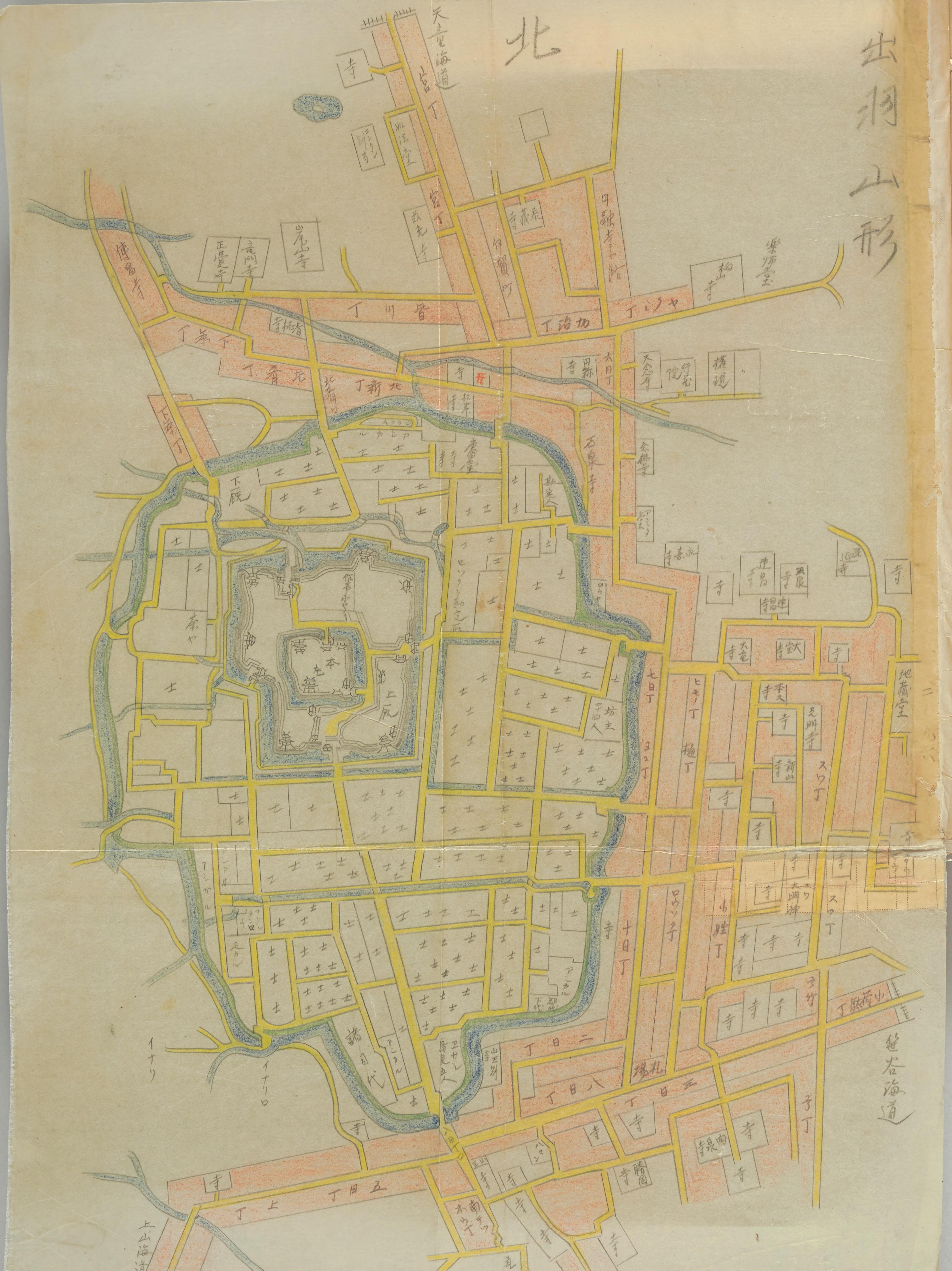
6.2

周囲
6K,900

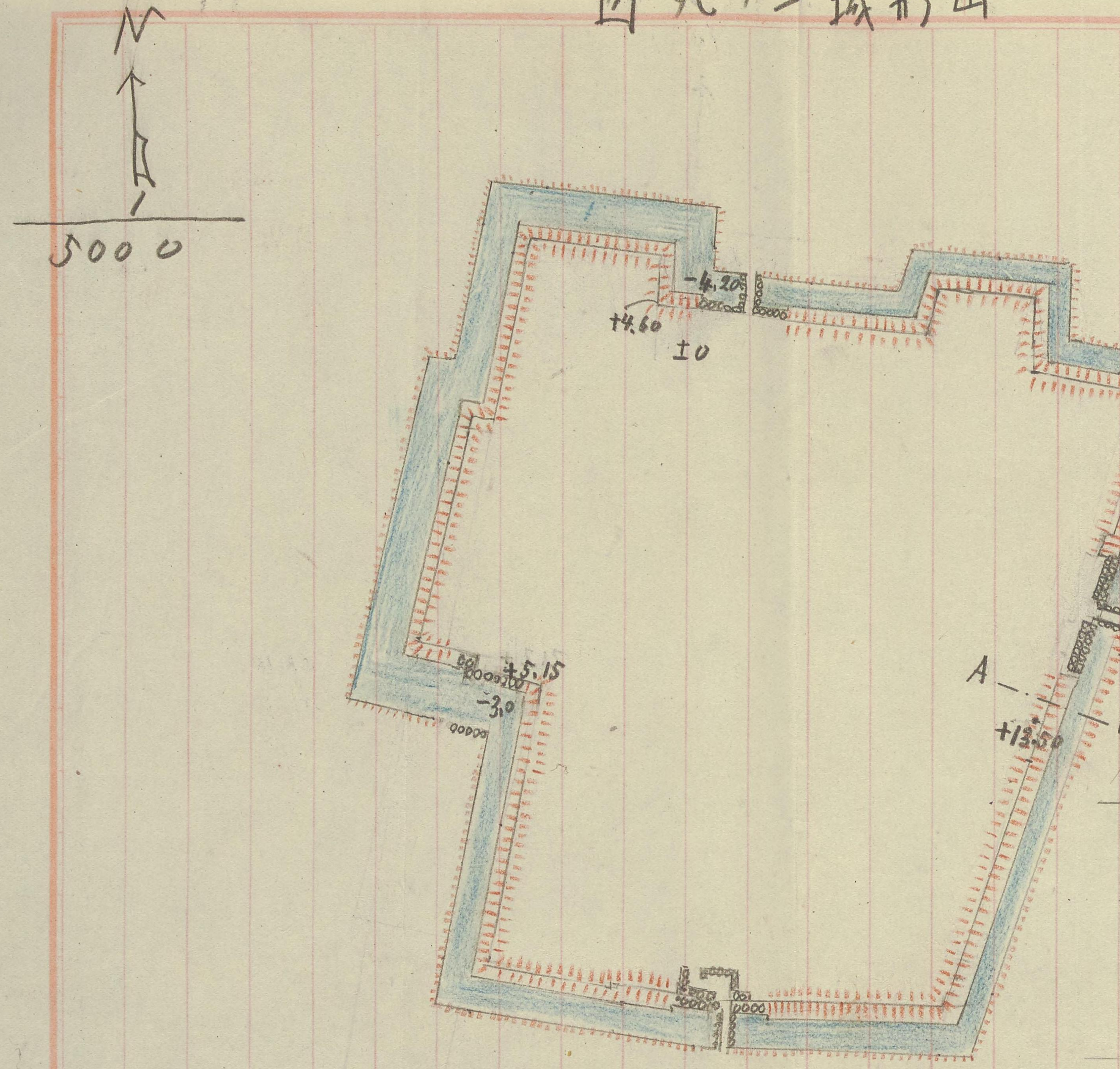

122.5
至天童
125
漆山
38°16′
127.90
柏山寺
薬師堂
馬見崎橋
149.1
山形中學校
山形師範學校
専稱寺
山
形
145.91
白川
法幢寺
至川
前田
下寶澤
千歳山射撃場
清水
小立
若松
戸神山
311.4


漆山
至天童
至てんどう
至長崎
1/20,000
龍門寺
薬師堂
柏山寺
馬見ヶ崎橋
歩兵第三十二聯隊營
山形中學校
山形師範學校
飯塚村
山形市
山形
南門外練兵場
やまがた
白川
法輪寺
A
B
狐越街道
八幡神社
奥羽線
羽州街道
南館
小瀧街道
前田
千歳山射撃場
本澤村
南沼原村
富中
前明石
堀込
吉原
清水
元木
小立
若松
青田
迎田
戸神山

出羽山形

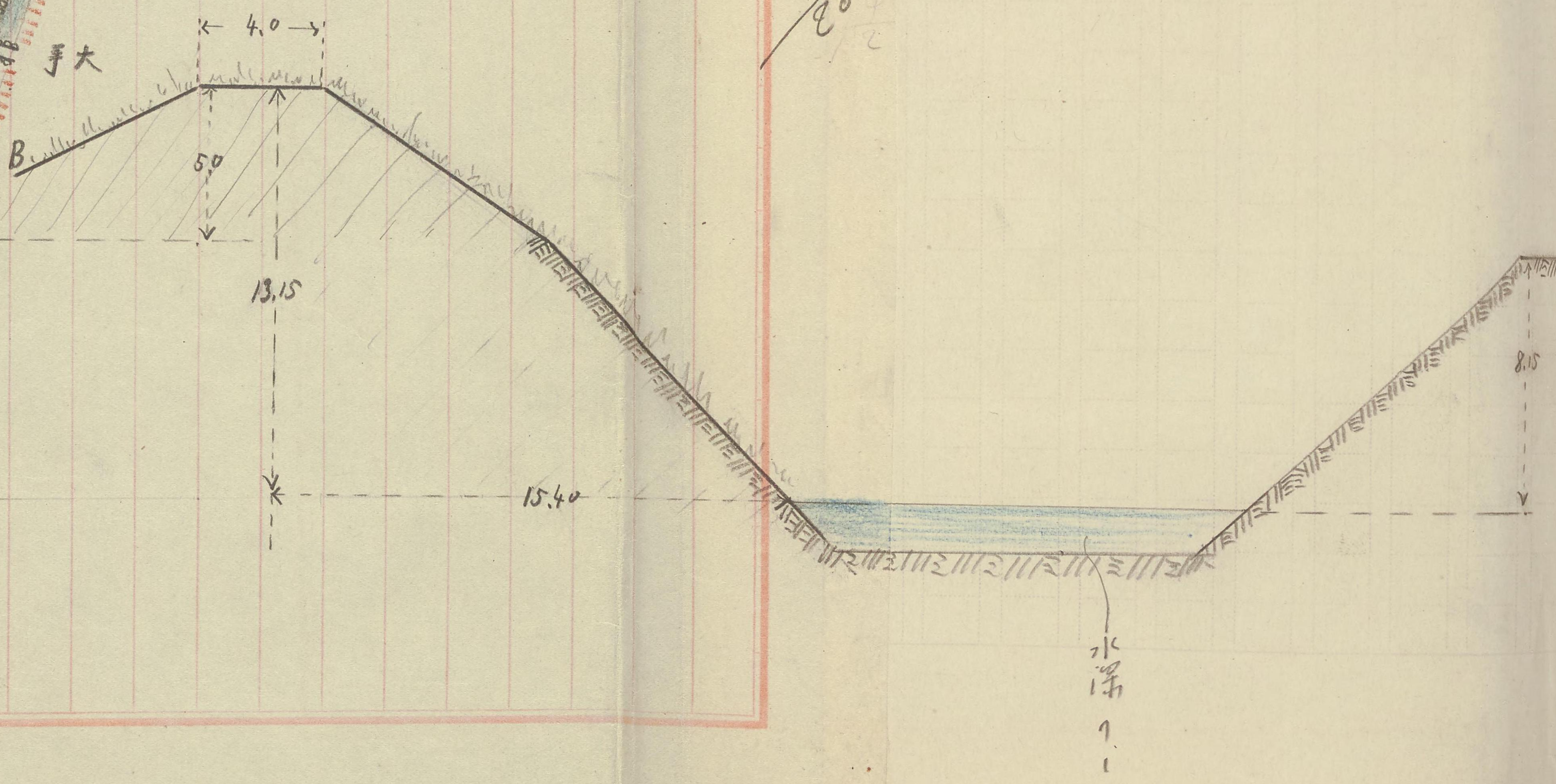

出羽山形
北
天童海道
宮丁
寺
ヨンケン別寺
如法堂
宮丁
光禅寺
泰蔵寺
伊賀町
円融寺小路
薬師堂
山寺
ヤシミ丁
加治丁
皆川丁
伝昌寺
正覚寺
竜門寺
岸山寺
清林寺
下条丁
北肴丁
北肴口
北新丁
下条丁
寺
松岸寺
田林寺
大日丁
天念寺
行蔵院
権現
ルカシア
アシヘ
寺
廣重堂
万泉寺
念仏寺
勘定人
アミシタ人
永寿寺
寺
康昌寺
玉泉寺
迎接寺
寺
連昌寺
下厩
作事小屋
ロウヤ
セロツク勘定所
茶ヤ
本丸
上厩
坊主
七日丁
七日丁
樋丁
大宝寺
大竜寺
寺
寺
地蔵堂
寺
光明寺
寺
新山寺
スワ丁
寺
寺
寺
寺
スワ大明神
スワ丁
寺
十日丁
ロウソク丁
小姓丁
寺
寺
寺
寺
アシカル
アシカル
ナシヒメ口
足カル
アシカル
下代
郡代
諸司代
アシカル
ヱサシ
鳥見五人
山王別当
二日丁
札場
八日丁
三日丁
竹丁
小荷駄丁
笹谷海道
寺
子丁
寺
寺
寺
寺
寺
寺
向泉寺
寺
勝因寺
ハマン
山王寺
寺
寺
南チウホウ丁
寺
丸ヤ
八日丁口
イナリ
イナリ口
寺
五日丁
上丁
上山海道
士

山形城二ノ丸図


N
1/5000
-4.20
+4.60
±0
大手
+5.15
-3.0
A
+13.50

AB ノ断面

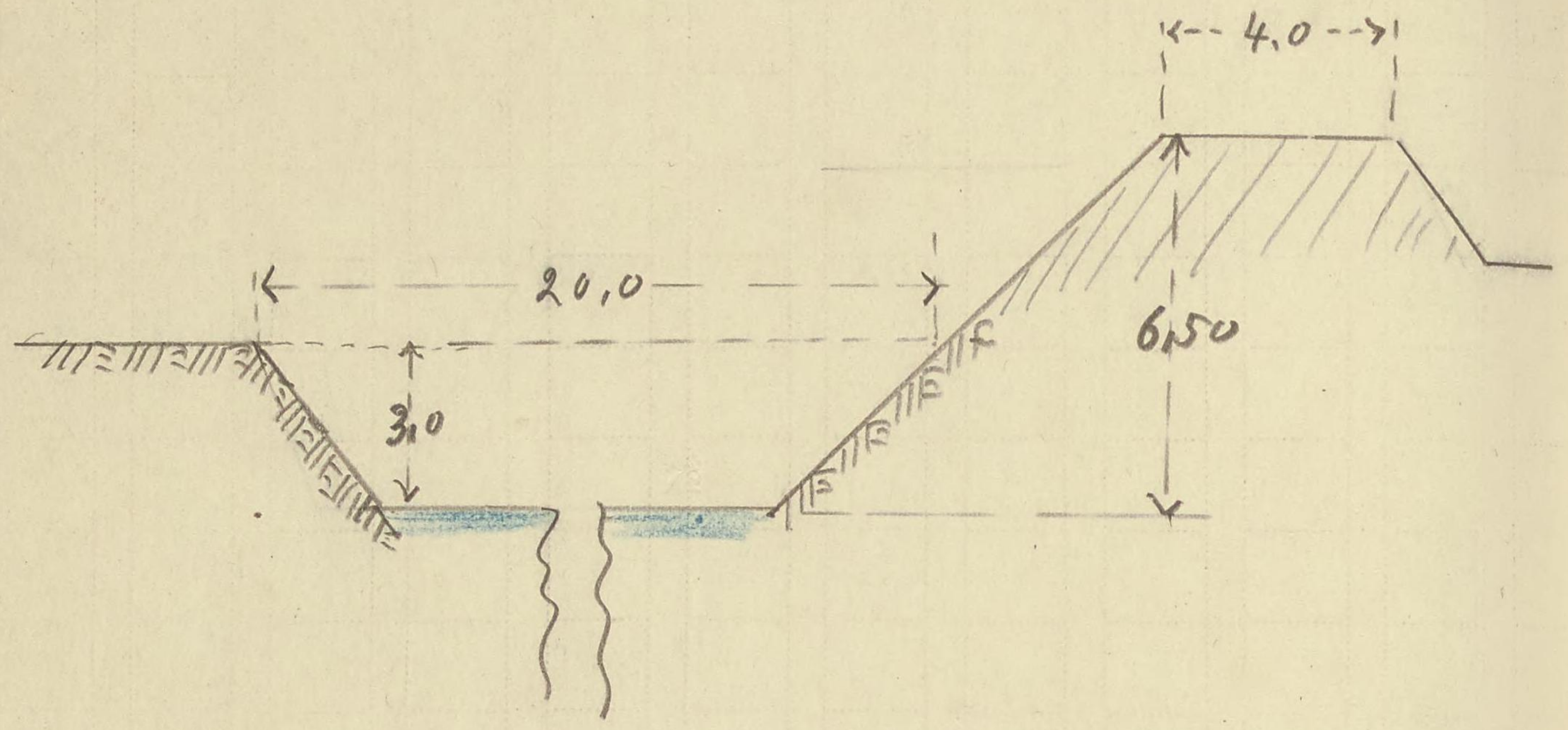
1/200


B
4.0
5.0
13.15
15.40
8.15
水深 1.1

三ノ丸西南隅

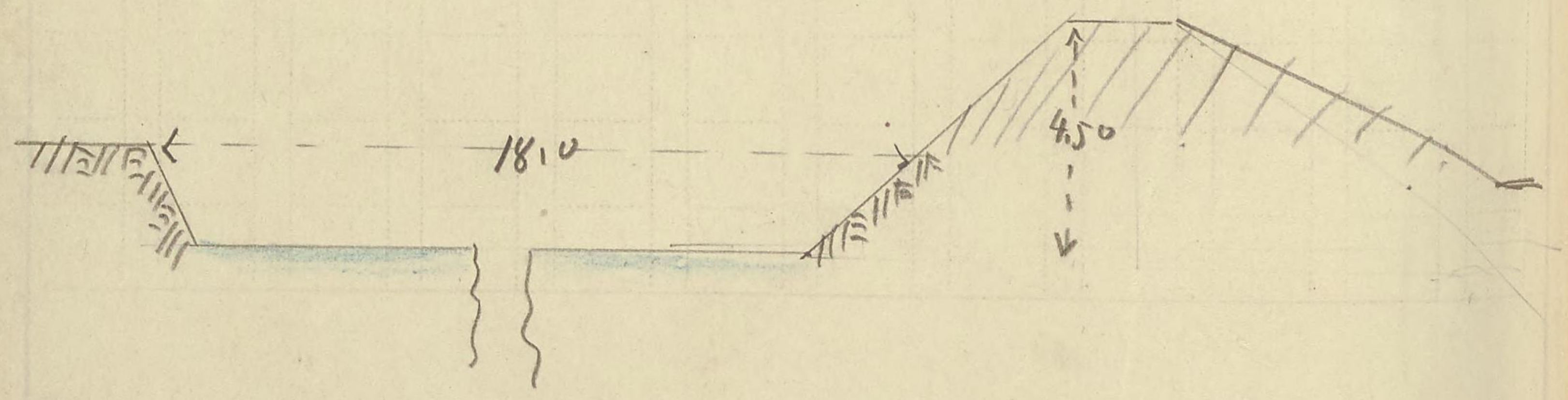
A部ノ断面図

1/200

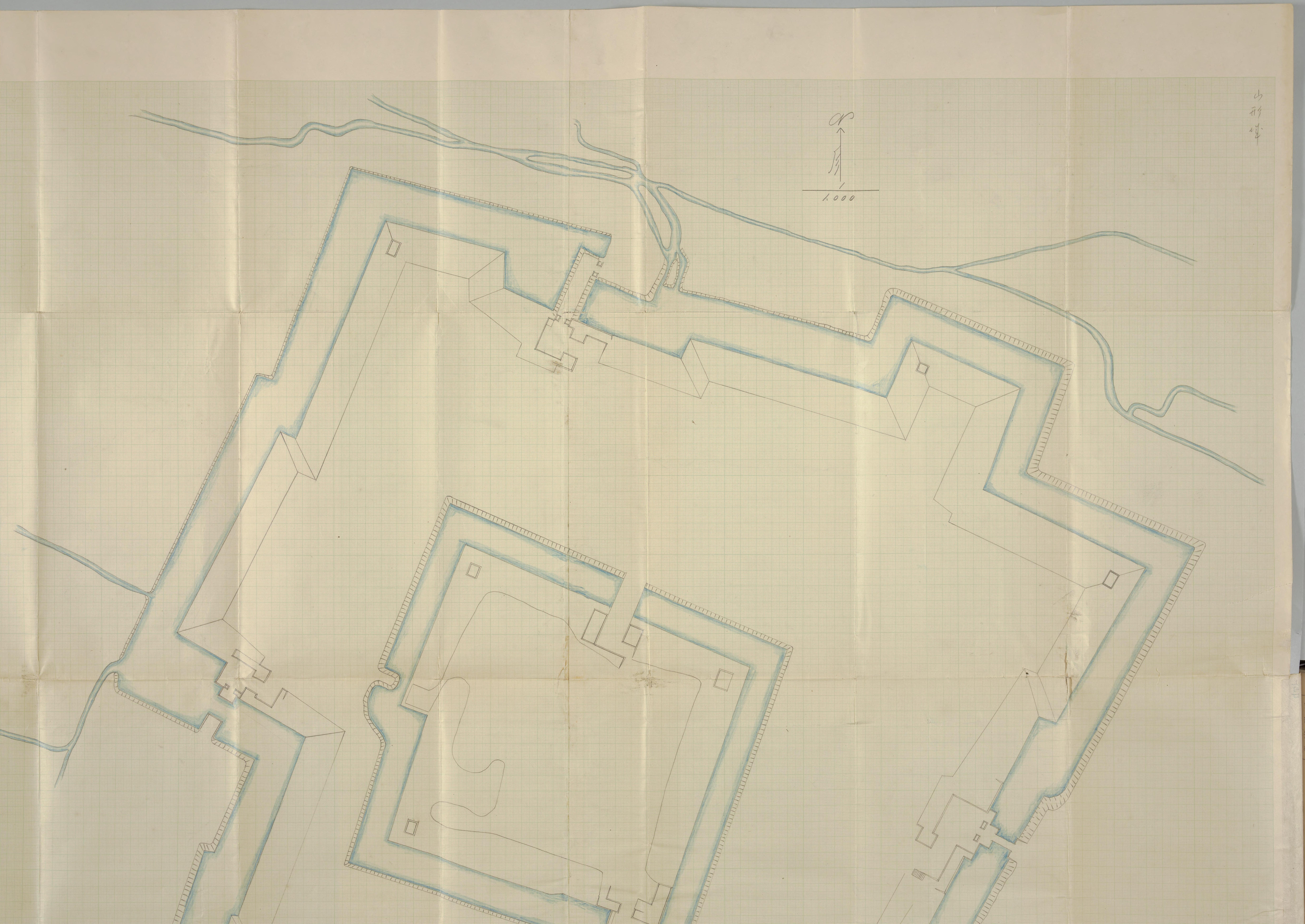

4.0
20.0
3.0
6.50

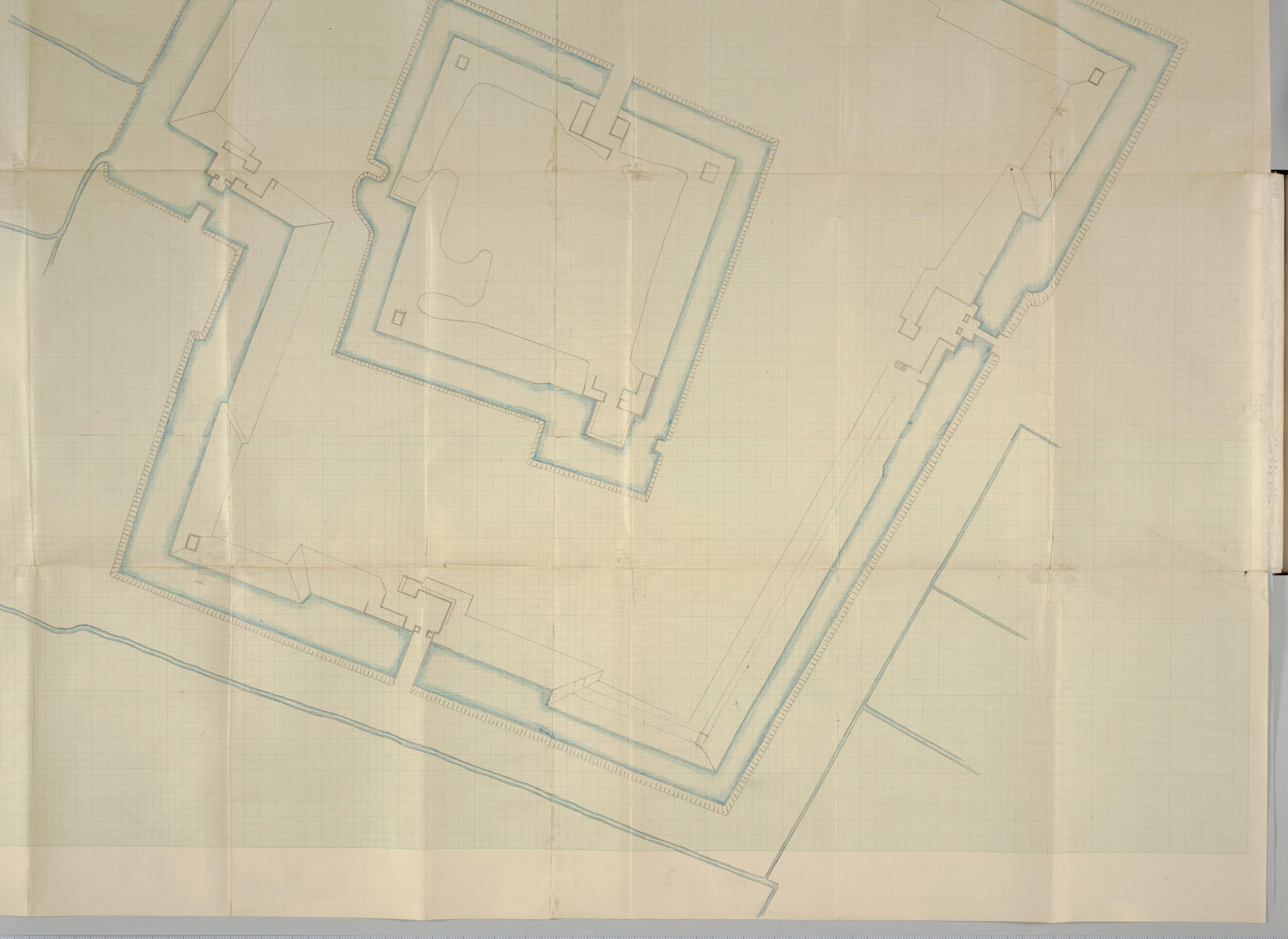
三ノ丸南部B部ノ断面図

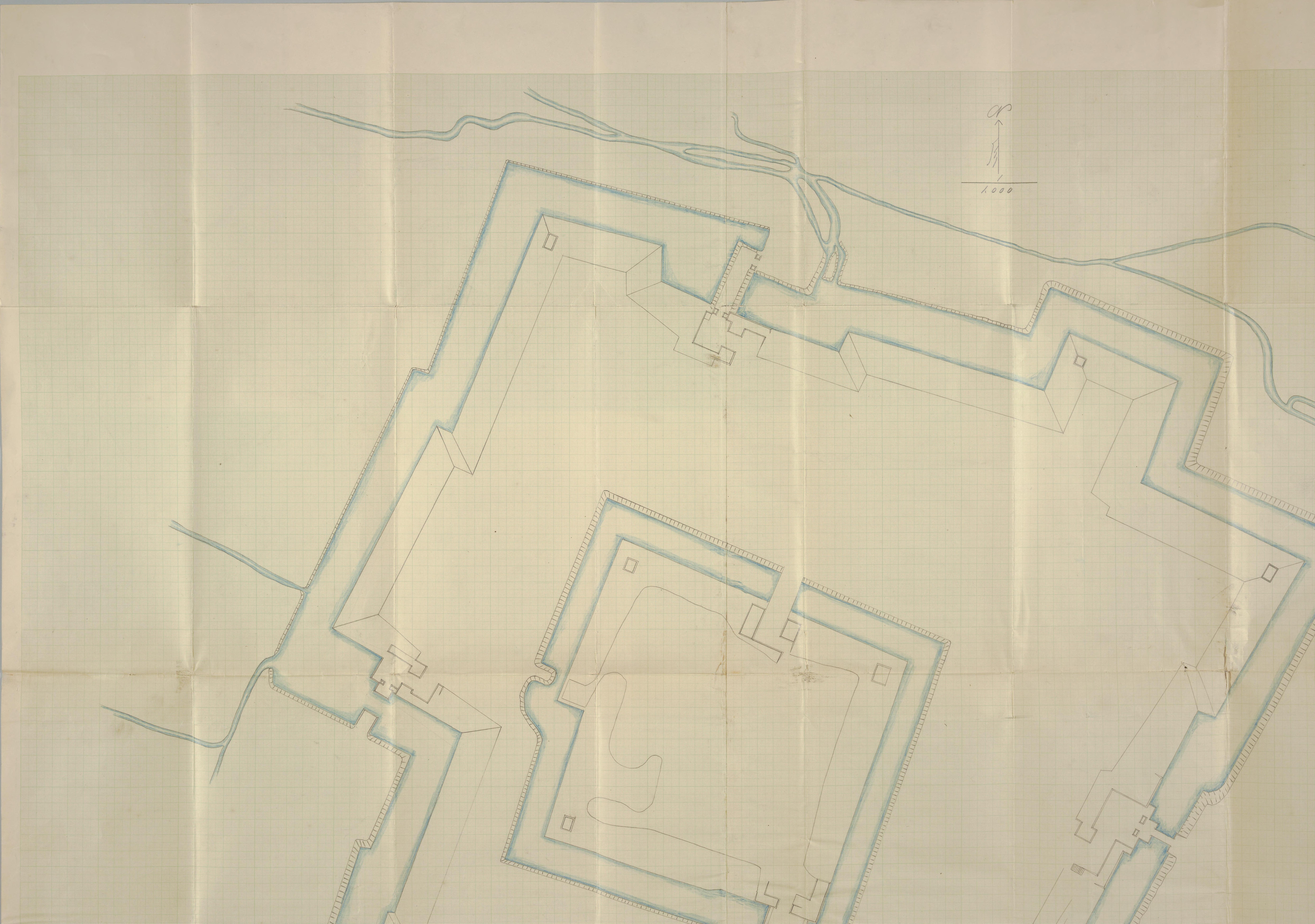
1/200



山形城






N
北
1
1,000

東根城城主變遷表

正平二年小田島長義当地ニ来リ城郭ヲ經始ス

2075　坂本樛高東根城主トナル

慶長七年七月二十五日坂本氏ノ臣里見景佐依六千石ヲ城主トス

元和八年鳥居氏ノ領トナル

---

長瀞城主變遷表

初メ　西根氏ノ領

正平二年東根城主小田島長義ノ領トナル

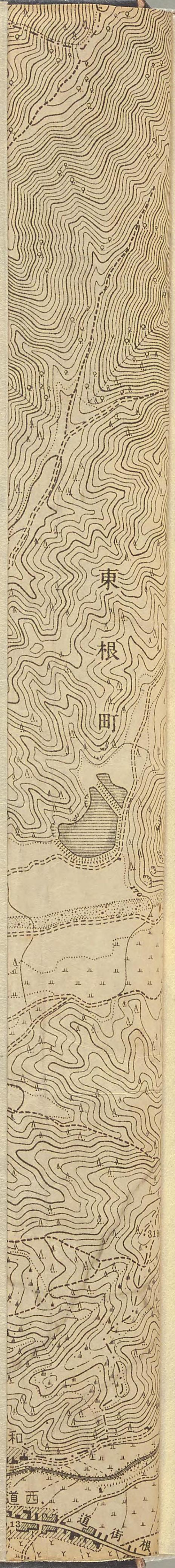
應永二十一年源滿家ヨリ領ス

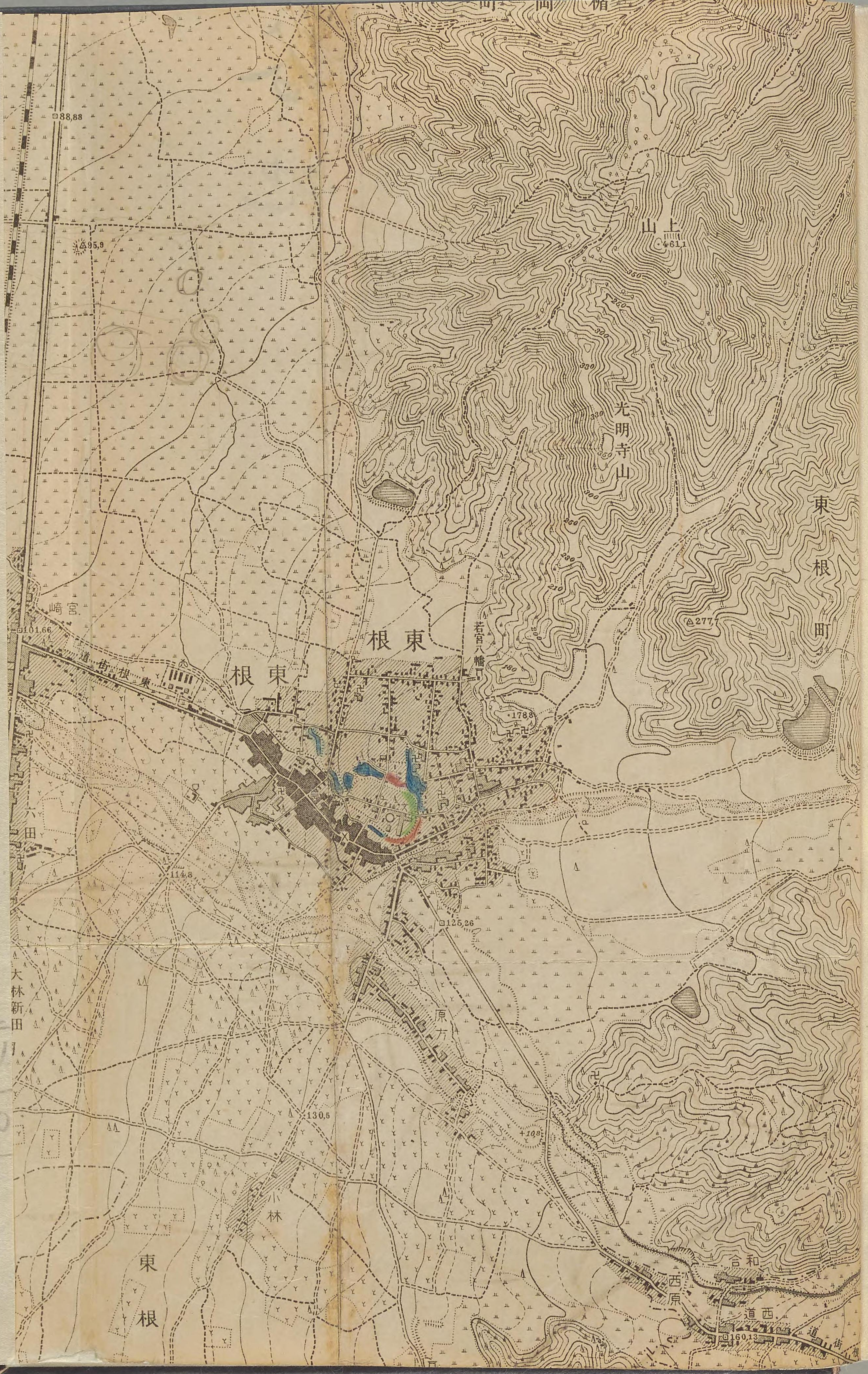
山形領

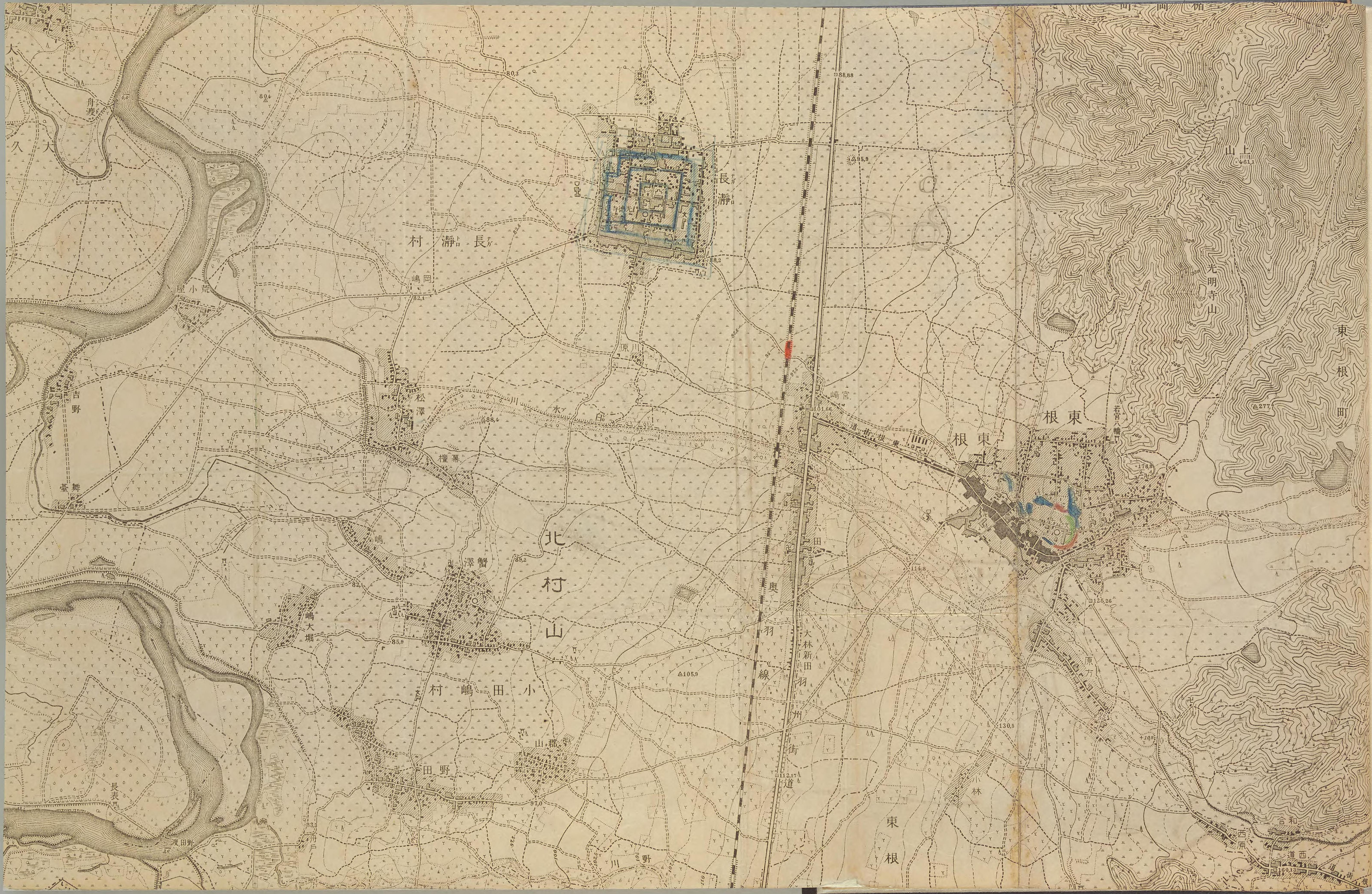
御

東根城
長瀞城

$\frac{1}{20,000}$




楯岡町
上山
光明寺山
東根町
若宮八幡
東根
東根
宮崎
東根街道
六田
大林新田
原方
林
東根
和合
西原
西道
88,88
95,9
101,66
114,8
125,26
130,6
178,8
160,13
277

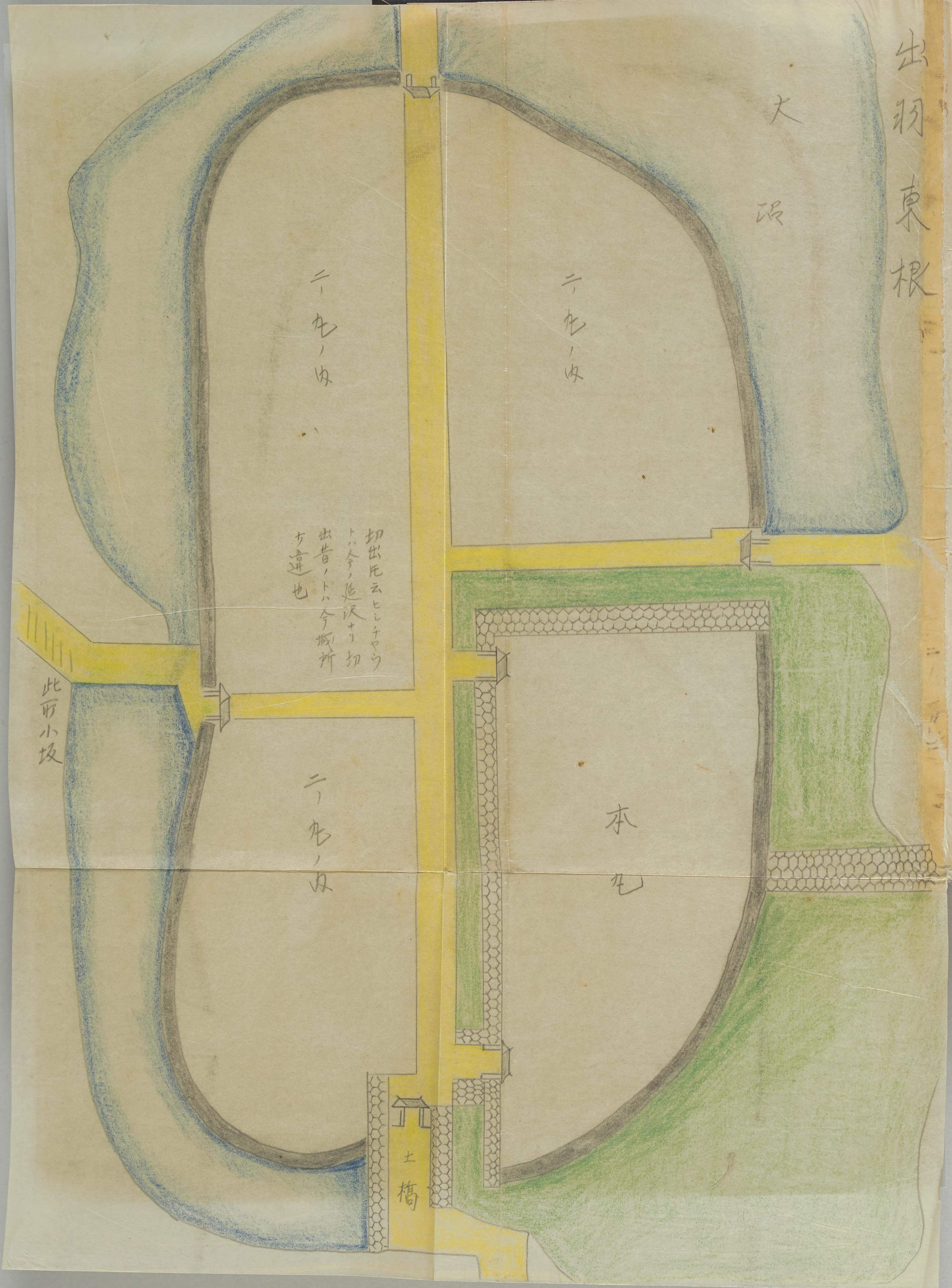

長靜村
長靜
岡嶋
荒小屋
吉野
松澤
舞臺
嶋
蟹澤
北村山
大堀嶋
小田嶋村
郡山
野田
川野
宮嶋
東根
東根町
光明寺山
奥羽線
大林新田
羽州街道
小林
東根
原方
西原

谷地

より岸

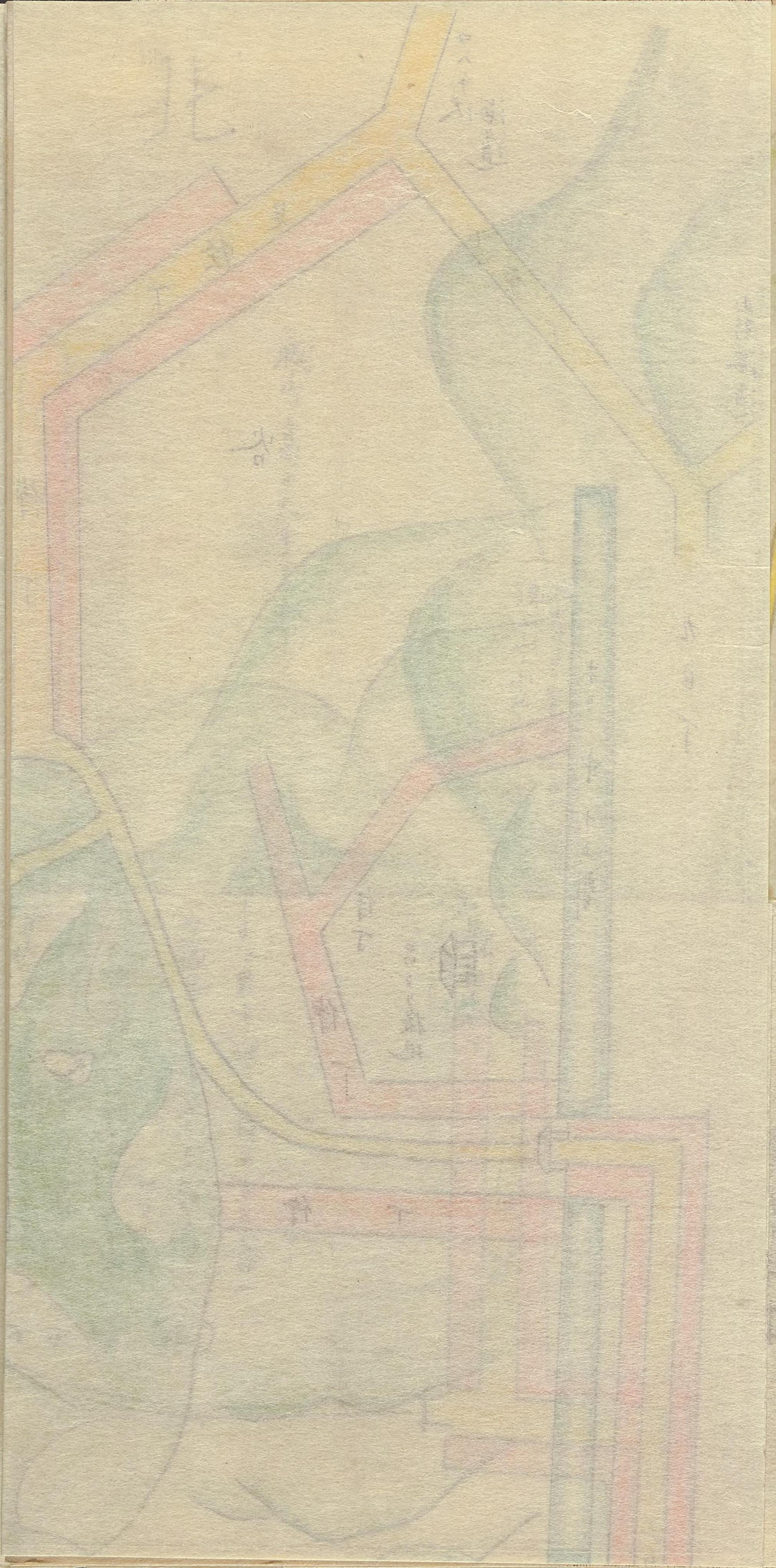
出羽東根

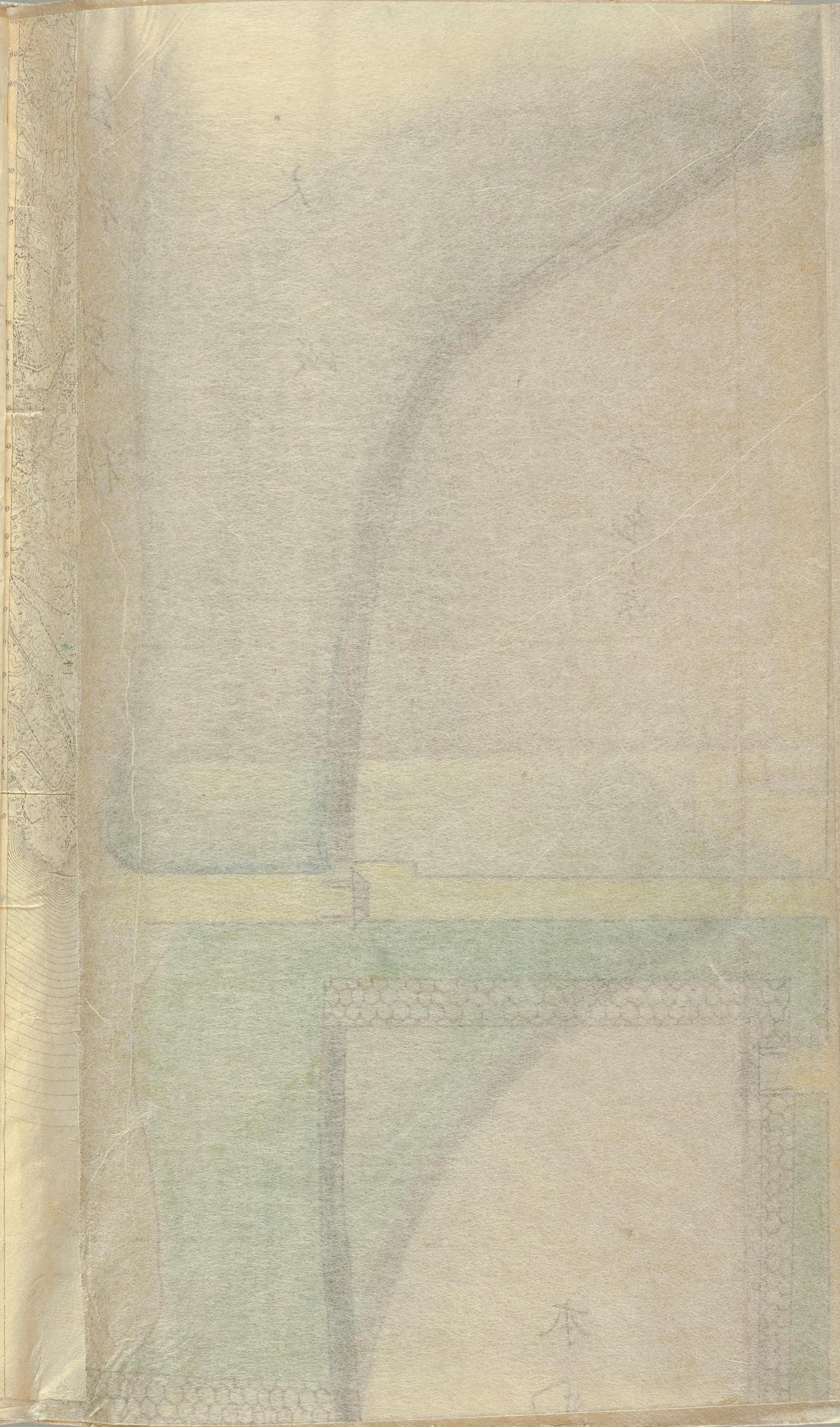
# 出羽東根

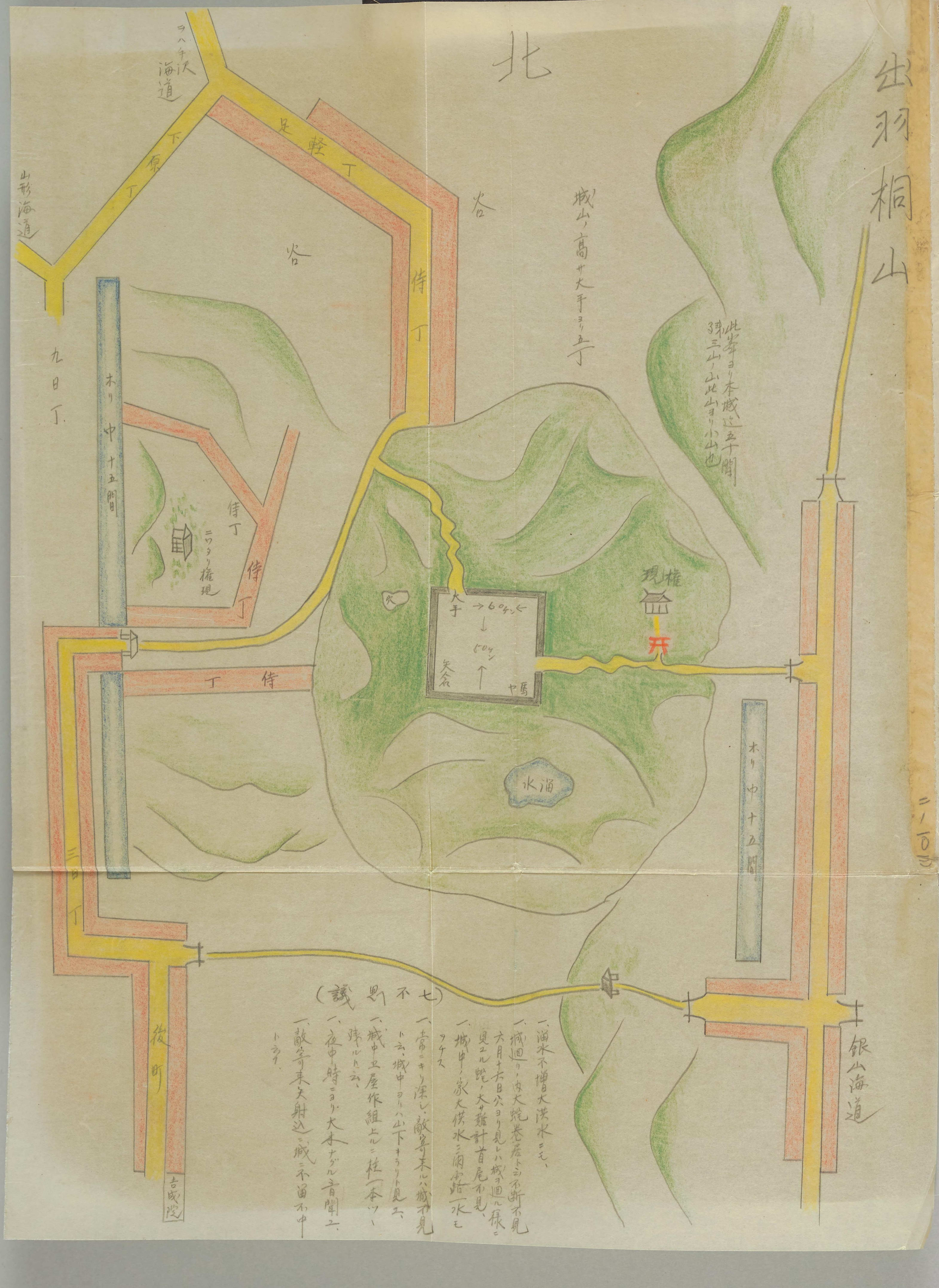

大沼
二ノ丸ノ内
二ノ丸ノ内
二ノ丸ノ内
本丸
此所小坂
土橋

切出丘云ヒシチヤウトハ今ノ延沢ナリ切出昔ノトハ今城所ナリ違也

出羽桐山






北
出羽桐山
ニハチ沢海道
山形海道
下原丁
足軽丁
侍丁
谷
谷
城山ノ高サ大手ヨリ五丁
此峯ヨリ本城迄五十間
ヨリ三山ノ山此山ヨリ小山也
九日丁
ホリ中十五間
侍丁
侍丁
ニワタリ権現
侍丁
大手
60ケン
50ケン
矢倉
ヤ倉
火
権現
氷涌
ホリ中十五間
三日丁
役町
吉成陛
銀山海道

（七不思議）

一、涌水不増大洪水ニモ、

一、城廻リノ内大蛇巻居ト云不断不見六月十六日穴ヨリ見レハ城ヲ廻ル様ニ見エル蛇ノ大サ難計首尾不見、

一、城中ノ家大洪水ニ雨露一水モヲチス

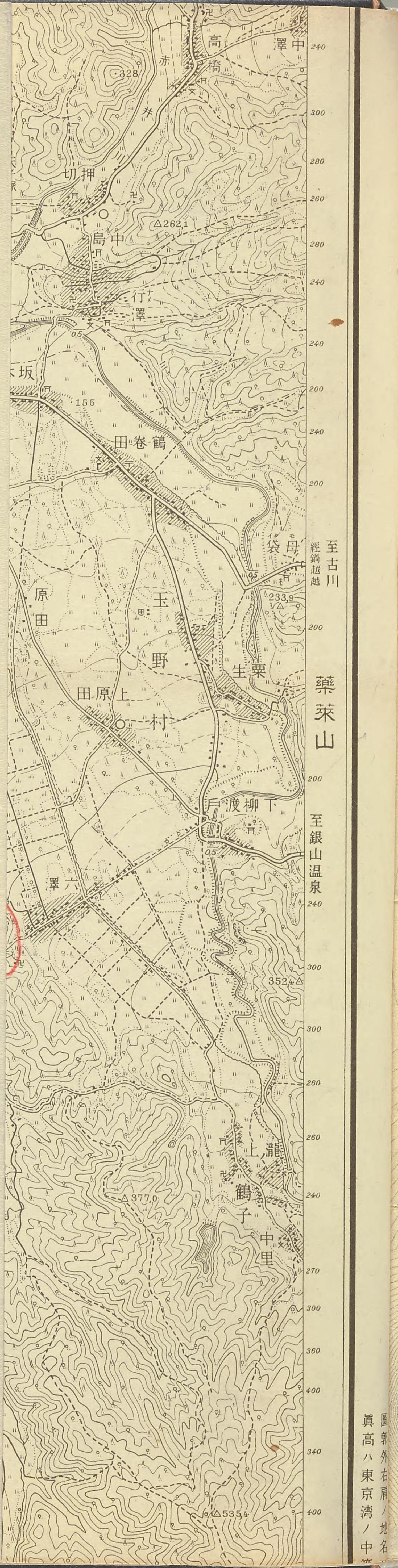
一、常ニキリ深シ、敵寄来ルハ城不見ト云、城中ヨリハ山下ナラリト見エ、

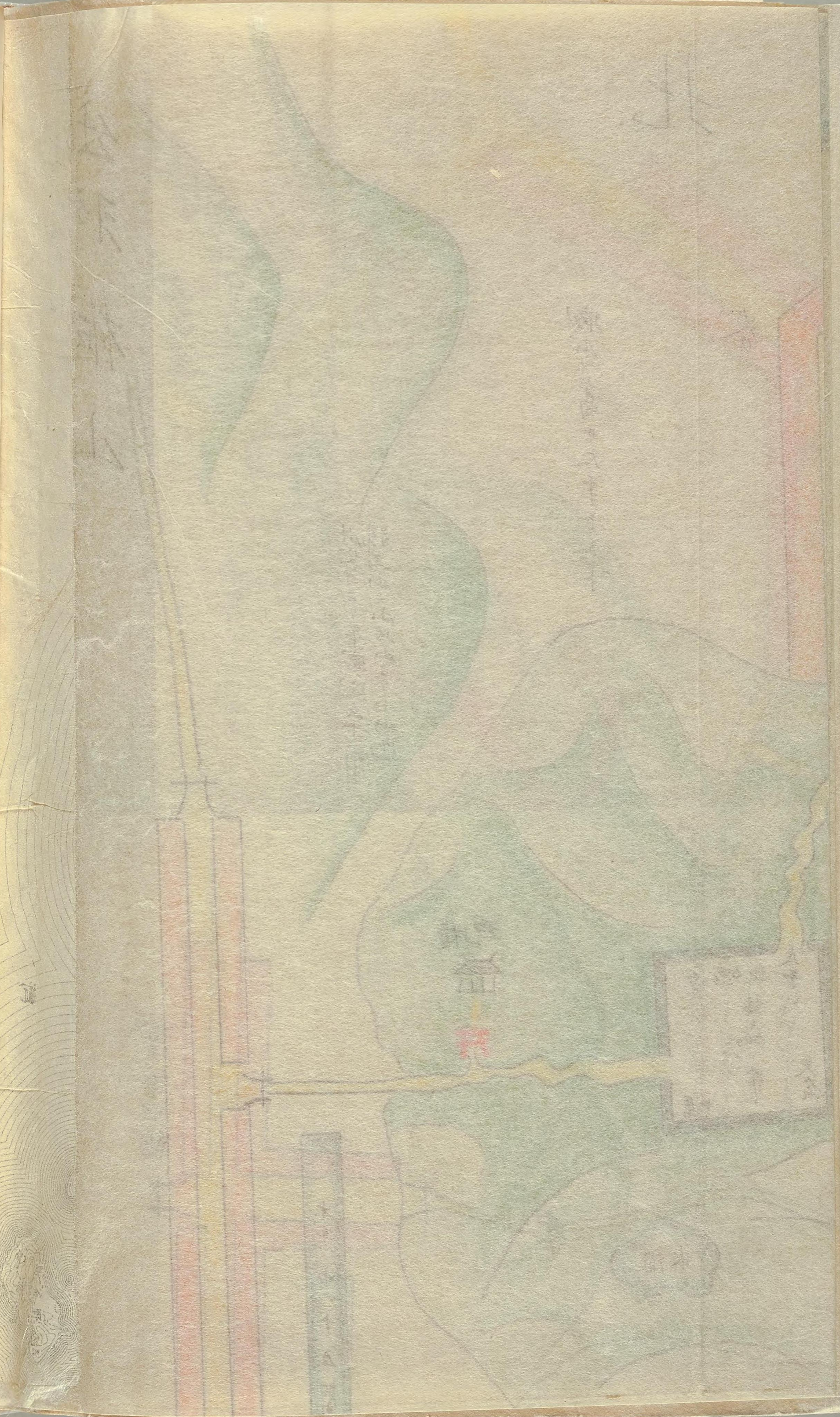
一、城中エ屋作組上ルニ柱一本ツヽ残ルト云、

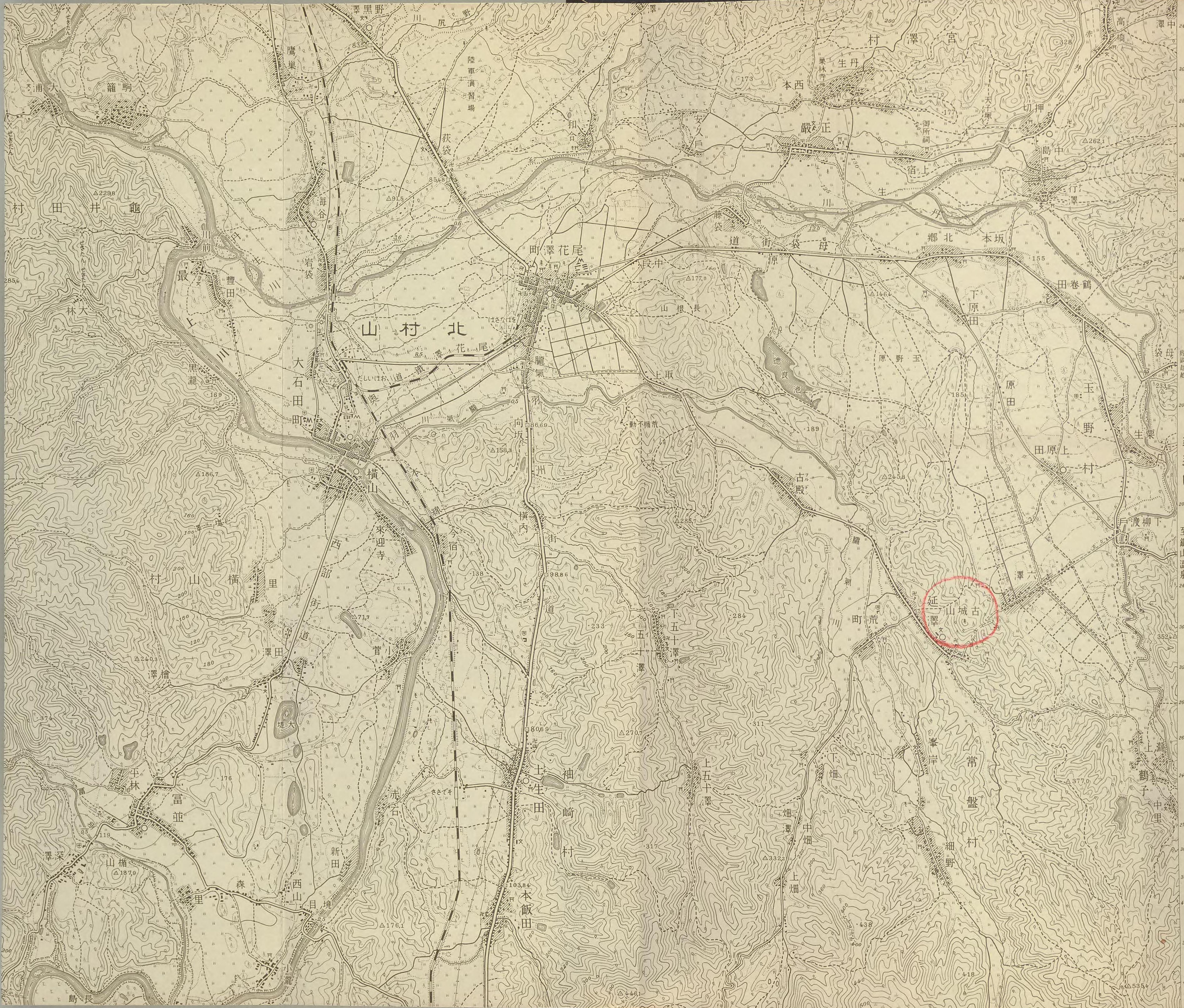
一、夜中時ニヨリ大木ナグル音聞エ、

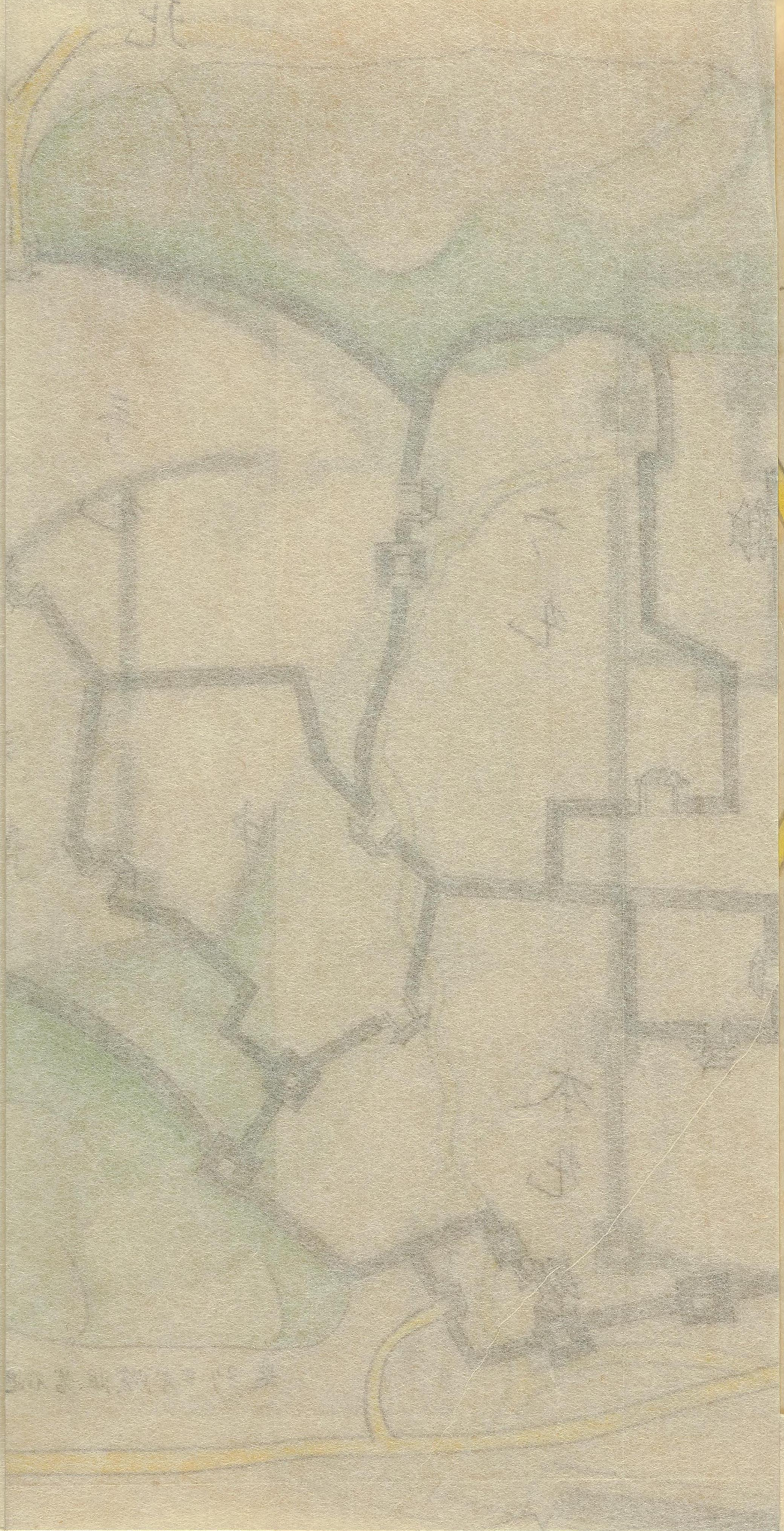
一、敵寄来矢射込ニ城ニ不留不中

尾花沢 延沢城


中澤
高橋
赤井川
押切
中島
行澤
坂
鶴巻田
母袋
至古川
經鍋越越
藥萊山
原田
玉野村
栗生
上原田
下柳渡戸
至銀山温泉
澤
上瀧
鶴子
中里
圖郭外右肩ノ地名
眞高ハ東京湾ノ中




北村山
尾花澤町
宮澤村
正厳
玉野村
横山
大石田
最上川
丹生川
横山村
来迎寺
古殿
荒町
古城山
延澤
常盤村
細野
袖崎村
本飯田
富並
鶴子
至古川
薬萊山
至銀山温泉



ふ13

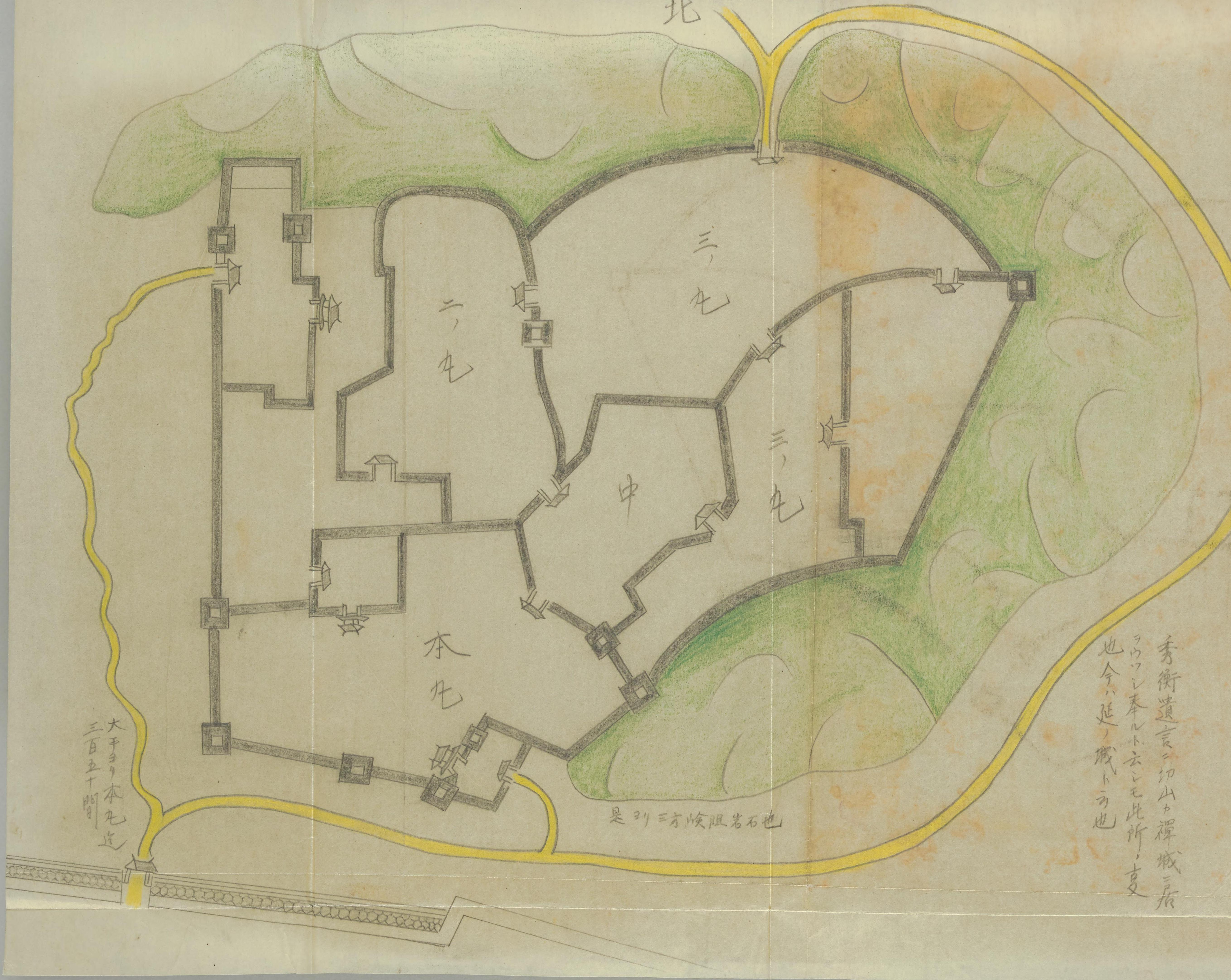
奥州延澤

二/一〇五ト×

五万分一

0313

# 奥州延澤


北
二ノ丸
三ノ丸
中
三ノ丸
本丸

大手ヨリ本丸迄
三百五十間

是ヨリ三方嶮阻岩石也

秀衡遺言ニ切山カ禪城ニ居
ラウツシ奉ルト云レモ此所ノ叓
也今ハ延ノ城ト云也

二ノ一〇五ト〆

別 20
4
2